資料 2-3

郡山市保育・幼児教育ビジョン策定にかかる施設・保育者アンケート調査

－調査結果報告書－

令和８年 10 月

郡山市

＜目　　次＞

Ⅰ　調査概要 1
（１）調査の目的 1
（２）調査概要 1
（３）回答状況 1
（４）調査結果の見方 2

Ⅱ　調査結果（施設アンケート） 3
１　施設の運営について 3
（１）人員配置の状況 3
（２）施設運営上の課題 6
（３）今後の施設運営 8
２　保育・幼児教育の質・安全性の確保 10
（１）保育・幼児教育の質の確保・向上 10
（２）郡山市保育の質向上研修 12
（３）施設内虐待の防止に関する取り組み 14
３　多様なニーズに対応した保育 16
（１）障がいのある児童について 16
（２）特別な支援を要する児童について 20
（３）多様な保育ニーズへの対応 24
４　家庭支援・地域に対する子育て支援 25
（１）入所児童以外の保護者に対する子育て支援の実施状況 25
（２）特別な支援が必要と思われる保護者について 27
（３）地域の他施設・団体との連携や交流 29
５　保育人材の確保・テクノロジーの活用等による業務改善 32
（１）保育者等の職場定着のための施設での取り組み状況 32
（２）施設における保育ＤＸの状況 33
（３）施設における業務改善の取り組みの業務負担軽減の効果 35
６　保育・幼児教育に関する市の支援 36
（１）本市公立保育所に求められる役割で特に必要だと思うもの 36
（２）本市における保育・幼児教育で市が重点的に取り組むべき施策 37

Ⅲ　調査結果（保育者アンケート） 38
１　現在就業している施設の類型 38
２　現在の雇用形態 38
３　資格所有状況 39
４　現在の施設での就業年数 39
５　現在就業している施設を選択した理由 40
６　現在の就業環境における、収入の満足度 41
７　保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領または幼稚園教育要領を理解し業務にいかしているか 41
８　保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領または幼稚園教育要領に沿った保育・幼児教育を実施しているか 42
９　保育・幼児教育業務で特に重視していること 43
10　保育・幼児教育の質の向上のために特に必要だと思うもの 44

11　現在の職場での園外研修の機会 45
12　今後、保育・幼児教育者として、習得又は向上したい知識や技術..... 46
13　施設内虐待の防止に関する理解・職場環境について..... 47
14　障がいがある児童や特別な支援を要する児童（要配慮児童）の受入に必要だと思うもの.... 49
15　現在の就業環境における休憩時間 50
16　保育・幼児教育者としてのやりがい・満足度..... 51
17　保育・幼児教育の仕事の魅力 51
18　職場の雰囲気の満足度 52
19　保育・幼児教育者として働くことを辞めたいと思う(思った)ことはあるか..... 52
20　保育・幼児教育者として働くことを辞めたいと思う（思った）理由..... 53
21　現在就業している施設で改善してもらいたいこと..... 54
22　本市公立保育所に求められる役割 55
23　本市における保育・幼児教育に関して、市が重点的に取り組むべき施策..... 56

Ⅰ 調査概要

（１）調査の目的

本調査は、「郡山市保育・幼児教育ビジョン」の策定にあたり、郡山市の保育・幼児教育の現状及び課題などの把握を行うために実施した。

（２）調査概要

施設アンケート

対象	公立保育所、民間認可保育所、事業所内保育事業、民間認可認定こども園、民間認可小規模、民間認可外保育施設、幼稚園
依頼方法	全施設に直接依頼
実施期間	2026（令和８）年８月７日～８月 31 日
回収方法	オンライン回収
回答数	118 施設／151 施設

保育者アンケート

対象	市内施設で保育・幼児教育に従事している方
依頼方法	施設に対し、自所属の保育・幼児教育従事者に対するアンケートの協力依頼（チラシの配布）
実施期間	2026（令和８）年８月７日～８月 31 日
回収方法	オンライン回収
回答数	837 人

（３）回答状況

調査対象者	調査票配布数①	有効回答数②	有効回答率 ②／①
施設アンケート	151 件	118 件	78.1%
保育者アンケート	－	837 件	－

（４）調査結果の見方

〇各設問のカテゴリー（選択肢）等について、表現を短縮・簡略化している場合がある。
〇集計結果のグラフのｎの値(number of cases)は回答割合算出における基数であり、100.0%が何人の回答に相当するかを表している。
〇回答割合は百分率で表し、小数第２位を四捨五入して算出している。したがって、単一回答式の質問においては、回答割合を合計しても 100.0%にならない場合がある。また、複数回答式の質問においては、各設問の調査数を基数として算出するため、全ての選択肢の割合を合計すると 100.0%を超える場合がある。
〇各設問において回答のなかった選択肢については、図表内で「-」と表記している。

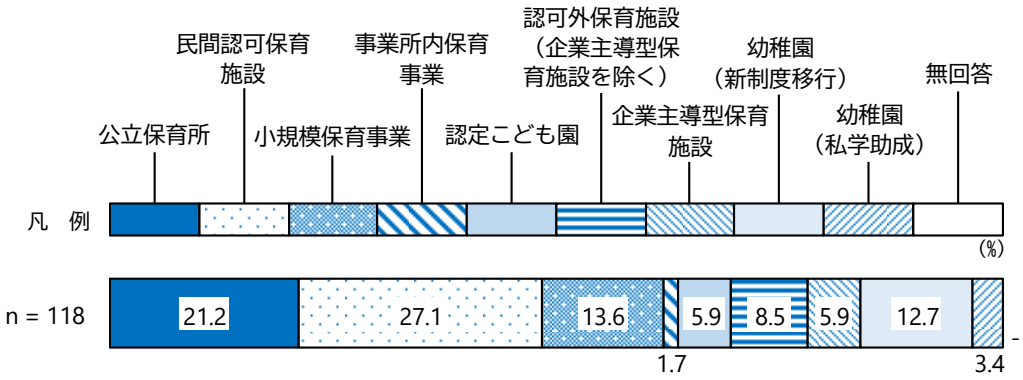
Ⅱ 調査結果（施設アンケート）

1 施設の運営について

①施設の類型

▶施設の類型について、「民間認可保育施設」が 27.1%と最も高く、次いで「公立保育所」（21.2%）、「小規模保育事業」（13.6%）となっている。

① 貴施設の類型を選択してください。

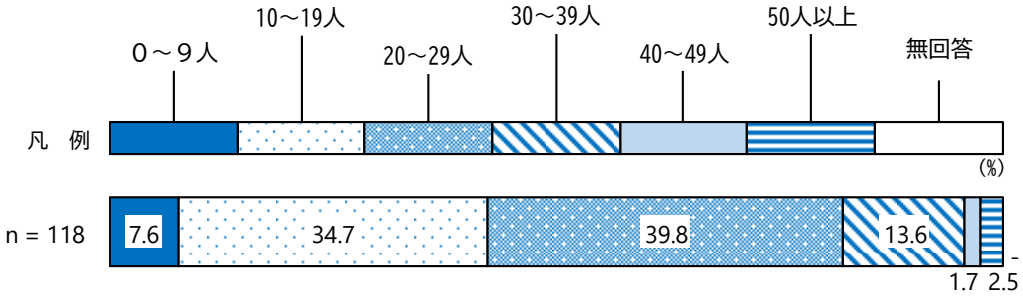


（１）人員配置の状況

①職員の数

▶職員の数について、「20～29 人」が 39.8%と最も高く、次いで「10～19 人」（34.7%）、「30～39 人」（13.6%）となっている。

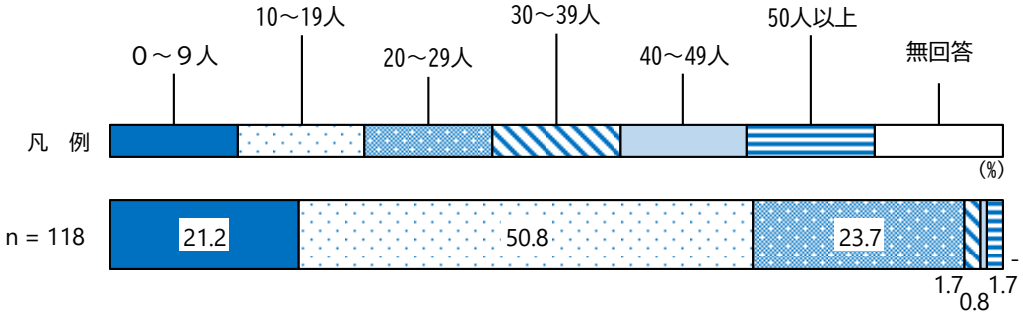
① 令和８年４月１日現在の職員の数は何人ですか。（職種、雇用形態は問わず、施設での業務に従事する職員）



②　保育・幼児教育者の数

▶保育・幼児教育者の数について、「10～19 人」が 50.8%と最も高く、次いで「20～29 人」（23.7%）、「０～９人」（21.2%）となっている。

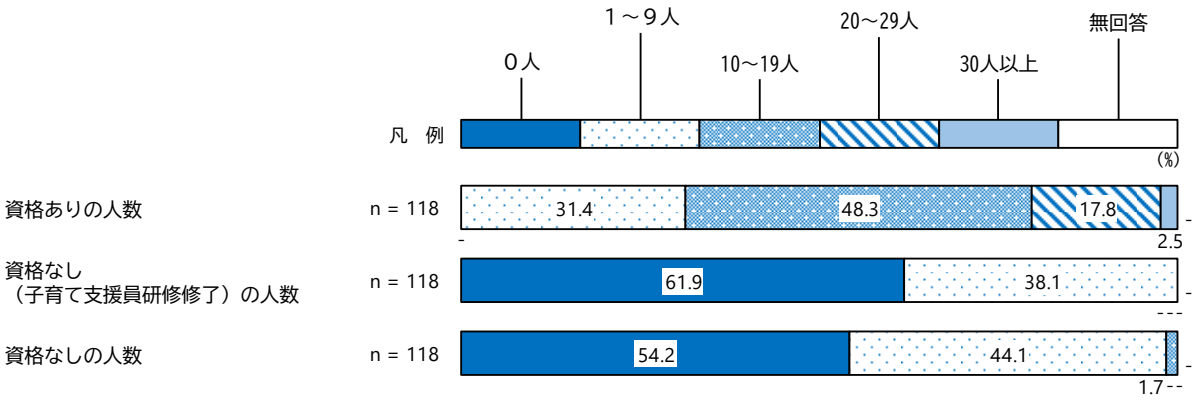
②　①の職員のうち、保育・幼児教育者(専ら保育・幼児教育業務に従事する職員、以下「保育者等」という。)の数は何人ですか。(通常は保育・幼児教育業務に従事しない施設長、調理員、用務員等は除く)



③　保育士資格の所有状況

▶保育士資格の所有状況について、『資格ありの人数』では、「10～19 人」が 48.3%と最も高く、次いで「１～９人」（31.4%）、「20～29 人」（17.8%）となっている。
▶『資格なし（子育て支援員研修修了）の人数』では、「０人」が 61.9%、「１～９人」が 38.1%となっている。
▶『資格なしの人数』では、「０人」が 54.2%と最も高く、次いで「１～９人」（44.1%）、「10～19 人」（1.7%）となっている。

③　②の保育者等について、保育士資格（幼稚園教諭免許）の所有状況をお答えください。

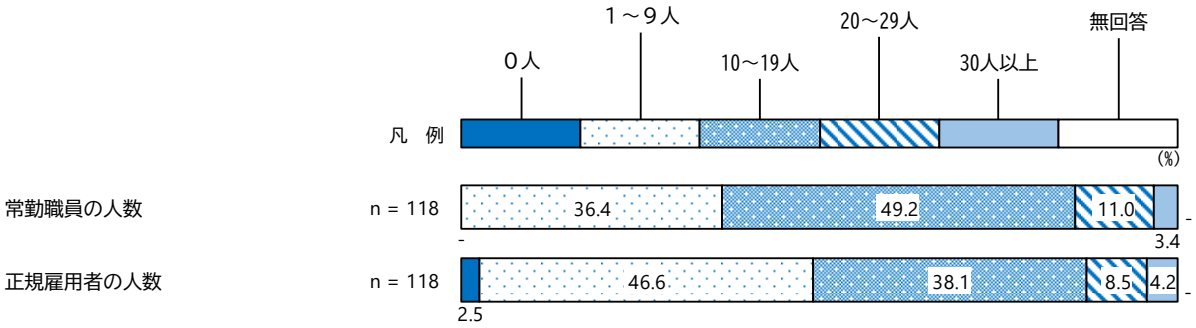


④～⑤　常勤職員・正規雇用者の数

▶常勤職員・正規雇用者の数について、『常勤職員の人数』では「10～19 人」が 49.2%と最も高く、次いで「１～９人」（36.4%）、「20～29 人」（11.0%）となっている。
▶『正規雇用者の人数』では「１～９人」が 46.6%と最も高く、次いで「10～19 人」（38.1%）、「20～29 人」（8.5%）となっている。

④　②の保育者等のうち、常勤職員（正規・非正規を問わず、一日に６時間以上かつ、月に 20 日以上勤務する職員）の数は何人ですか。

⑤　②の保育者等のうち、正規雇用者（常勤・非常勤を問わず、期間の定めがなく雇用されている職員）は何人ですか。

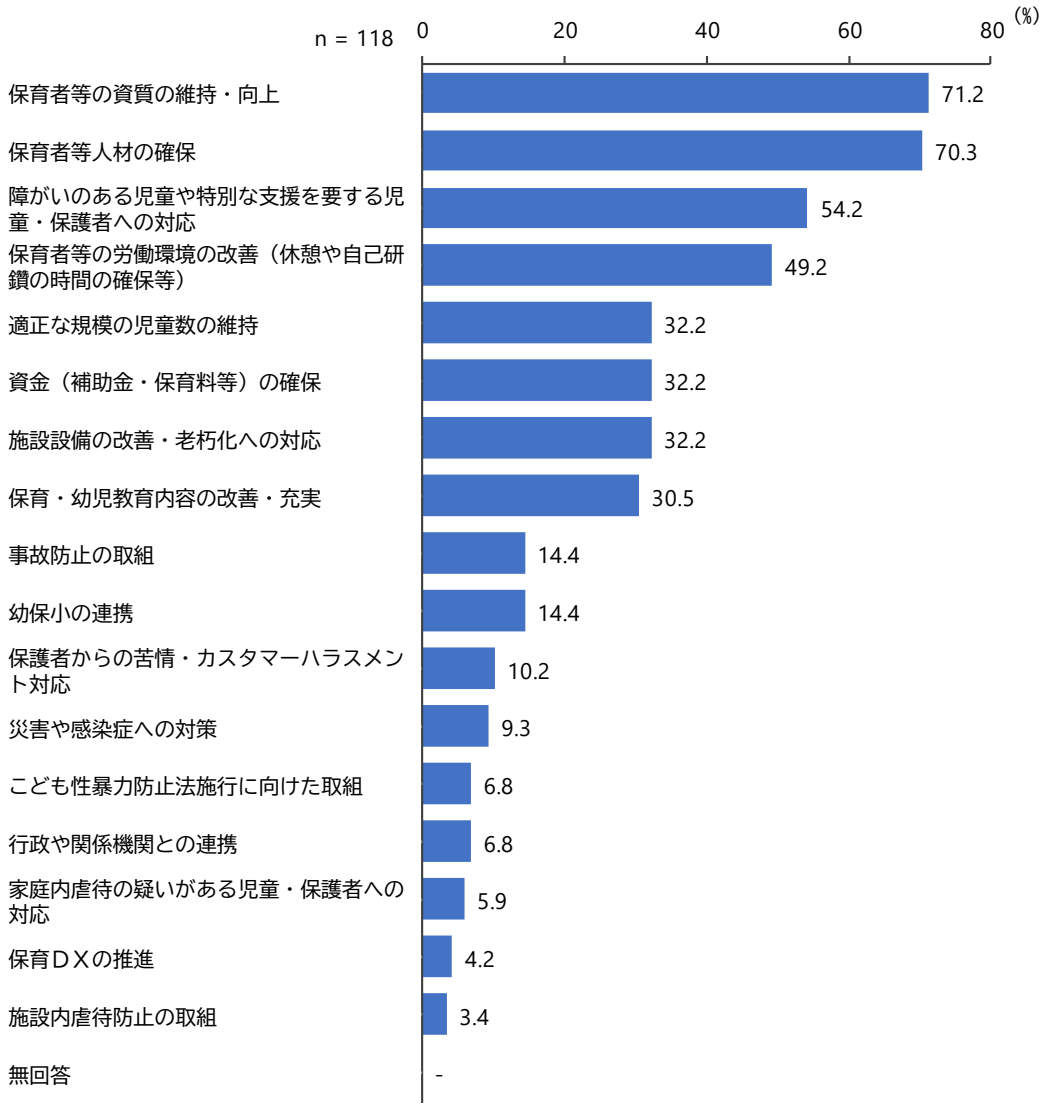


（２）施設運営上の課題

①　施設運営上、特に課題と思うもの

▶施設運営上、特に課題と思うものについて、「保育者等の資質の維持・向上」が 71.2%と最も高く、次いで「保育者等人材の確保」（70.3%）、「障がいのある児童や特別な支援を要する児童・保護者への対応」（54.2%）となっている。

①　施設運営上、特に課題と思うものを５つまで選択してください。



②　選択肢にない課題（自由記述・抜粋）

②　選択肢にない課題がありましたら自由に記載してください。

●人材育成
●地域交流
●規定以上の職員配置は出来ているが、長時間保育や土曜保育利用の児童、気になる子が多いことから、残業になる等し、ゆとりがない。
●保育士基準について、今年度より厳しくなり、資格を持っていない方の勤務時間の確保が難しくなってきている。
●より安全な保育のための設備に対する補助

等

③　課題解決に向けての要望・意見（自由記述・抜粋）

③　課題解決に向けて、市への要望・意見等がありましたら自由に記載してください。

●年度はじめは０歳児の入園が少なく、その分補助金が入らない。そういう場合の補助対策を取ってほしい。
●各種加算等公定価格の見直し等について詳しい説明が必要。５歳児健診前に各園を訪問して適正な就学に向けた支援をしてほしい。
●各保育所に臨床心理士を巡回させてほしい。事務専門の方も巡回してほしい。
●認可外保育士は産休・育休後保育園活動をするも加点の対象にならず、職場復帰が難しくなるため、その分の人材確保や調整が難しい。認可・認可外問わず加点の対象となると有難いです。
●保育者の人材不足や、育休や時短勤務などの福利厚生を手厚くしていることから、特に朝夕など、保育士が足りない。その分、朝夕など手薄になる時間帯は保育士資格を持っている施設長も保育士の１人にカウントして欲しい。

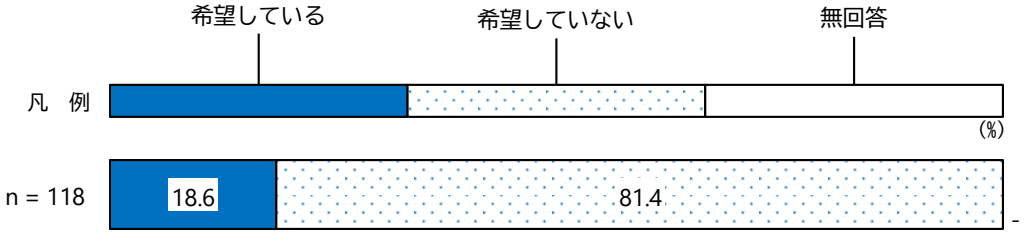
等

（３）今後の施設運営

①　認可保育所、認定こども園又は新制度幼稚園などへの移行希望

▶認可保育所、認定こども園又は新制度幼稚園などへの移行希望について、「希望していない」が 81.4%、「希望している」が 18.6%となっている。

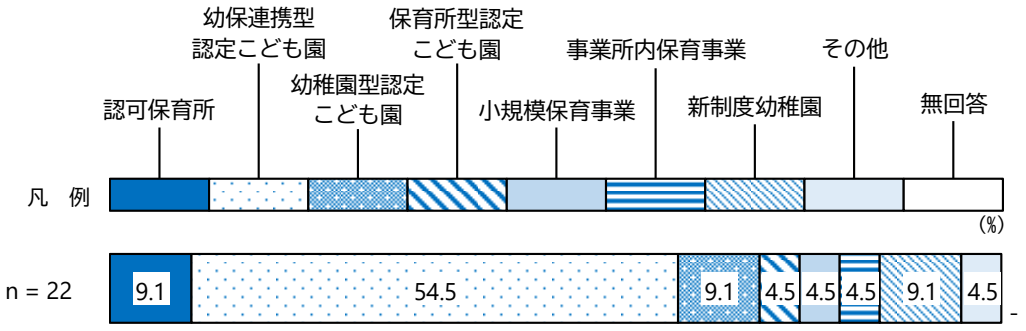
①　５年以内に認可保育所、認定こども園又は新制度幼稚園などへの移行を希望していますか。



②　移行を希望する類型

▶移行を希望する類型について、「幼保連携型認定こども園」が 54.5%と最も高く、次いで「認可保育所」「幼稚園型認定こども園」「新制度幼稚園」（それぞれ 9.1%）、「保育所型認定こども園」「小規模保育事業」「事業所内保育事業」（それぞれ 4.5%）となっている。

②　①で「ア：希望している」と回答した施設に伺います。どの類型を希望していますか。



③　今後の施設運営で５年以内で計画していること（自由記述・抜粋）

③　今後の施設運営について、５年以内の計画として予定または検討していることがあれば自由に記載してください。（例：定員の縮小・拡大、事業の廃止、移転等）

●発達支援事業
●こども園に移行し、多種多様なニーズに答えられるようにしたい。誰でも通園制度、病児保育、休日祝日保育等。
●小規模保育事業について事業の廃止又は合併等を検討しています。
●定員の縮小
●土曜日等共同保育の参画、継続運営

等

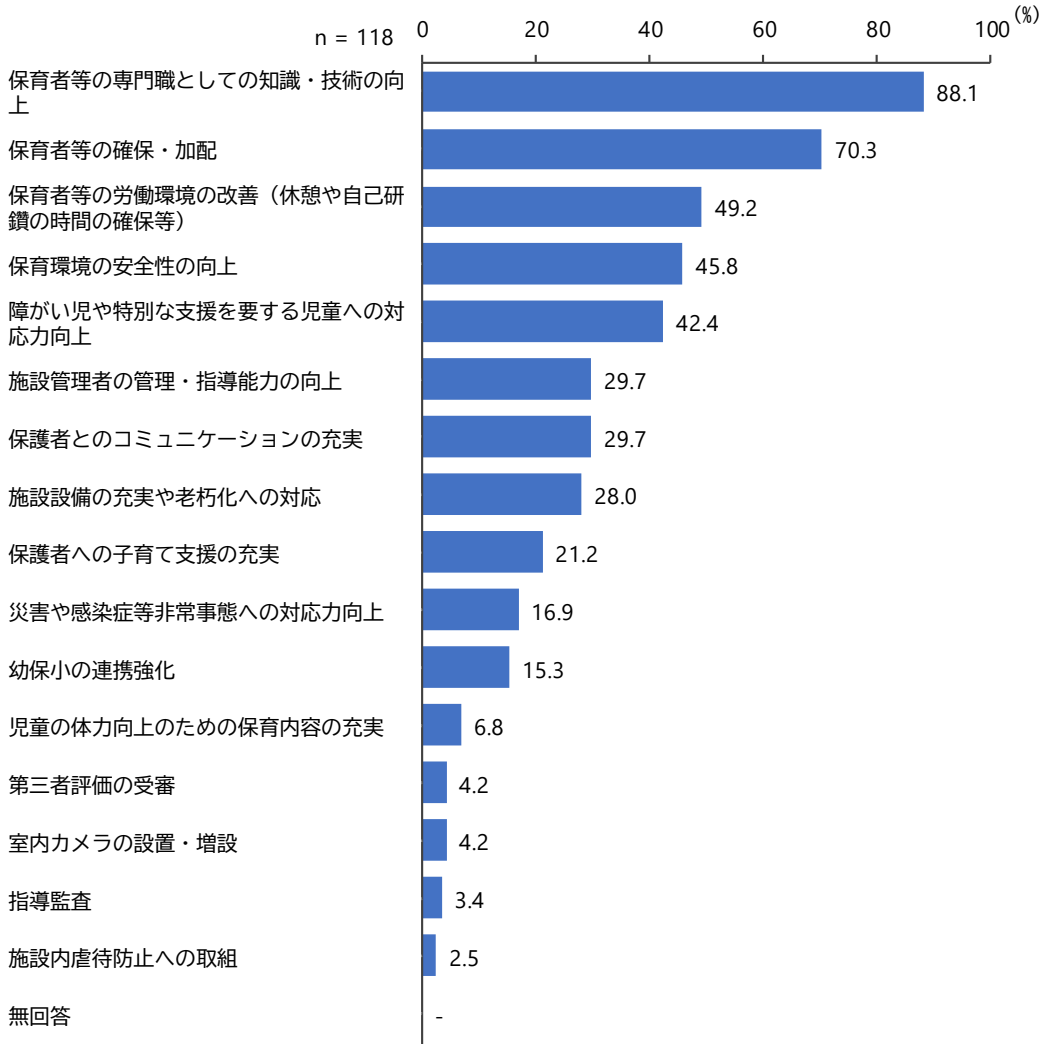
2 保育・幼児教育の質・安全性の確保

（１）保育・幼児教育の質の確保・向上

①　保育・幼児教育の質の向上のために特に必要だと思うもの

▶保育・幼児教育の質の向上のために特に必要だと思うものについて、「保育者等の専門職としての知識・技術の向上」が 88.1%と最も高く、次いで「保育者等の確保・加配」（70.3%）、「保育者等の労働環境の改善（休憩や自己研鑽の時間の確保等）」（49.2%）となっている。

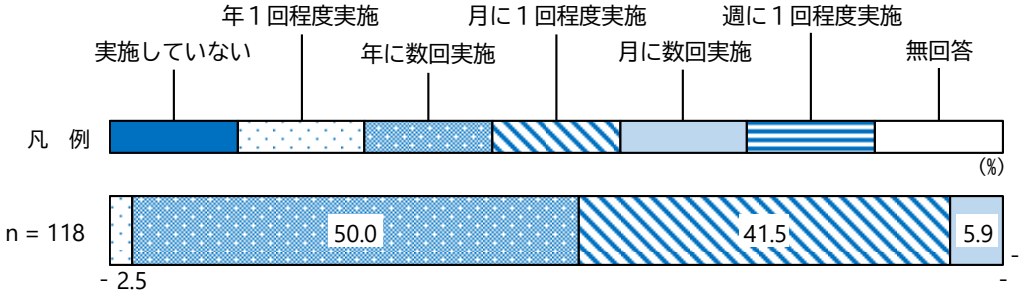
①　保育・幼児教育の質の向上のために特に必要だと思うものを５つまで選択してください。



②　施設内での保育者等研修の実施頻度

▶施設内での保育者等研修の実施頻度について、「年に数回実施」が 50.0%と最も高く、次いで「月に１回程度実施」（41.5%）、「月に数回実施」（5.9%）となっている。

②　施設内での保育者等研修をどのぐらい実施していますか。（ＯＪＴを除く）



③　指導監査への要望（自由記述・抜粋）

③　指導監査について、要望がありましたら自由に記載してください。
（幼稚園（私学助成）を除く）

●書類の監査よりも、午睡や保育内容、調理現場の具体的な指導があった方が、現場において意味のあるものになると考える。
●他県と比べると、準備書類や監査時間が大きく違うため、簡略できるところがあれば改善していただきたい。
●午前中で終了する監査にしてほしい。
●指摘事項、口頭等改善しているが、監査に来る人により異なることが見られるので統一してほしいです。
●指摘事項等改善しているが、改善後変更があれば情報を教えてほしいです。

等

④　保育・幼児教育の質の向上に向けての要望・意見（自由記述・抜粋）

④　全市的な保育・幼児教育の質の向上に向けて、市への要望・意見等がありましたら自由に記載してください。

●障がいをもつ園児への手厚い援助を、是非お願いいたします。
●家庭教育力の低下に伴って園への依存率が高く、両親仕事がなくても預ける家庭があり子どもとの愛着関係が希薄になっている。家庭教育力の向上を図る施策を講じていただきたい。
●質の向上を考えるにあたり、園内研修を行う時間がとれない。外部に出すのも難しいときがある。30 分程度の動画研修など自由にみられるようなコンテンツがあると勉強しやすいと思う。
●市が中心となり、法改正等色々と新しく取り入れなくてはならない内容が増えてきている中で、もう少し早めの告示をお願いしたい。
●外部研修を少なくし、園内研修を充実させる必要がある。

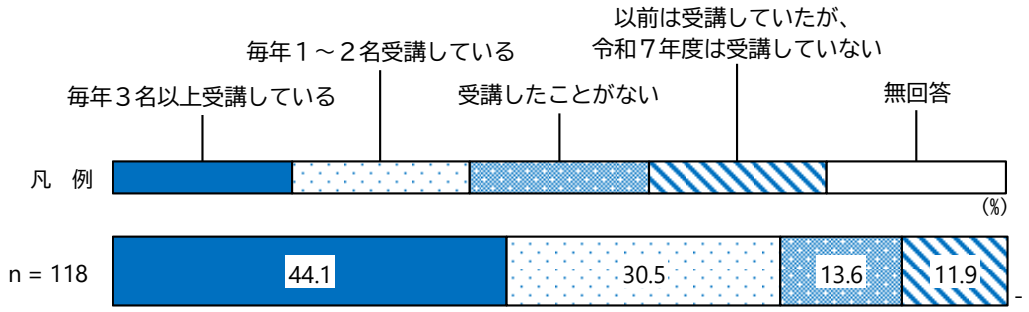
等

（２）郡山市保育の質向上研修

①　郡山市保育の質の向上研修の受講有無

▶郡山市保育の質の向上研修の受講有無について、「毎年３名以上受講している」が 44.1%と最も高く、次いで「毎年１～２名受講している」（30.5%）、「受講したことがない」（13.6%）となっている。

①　郡山市保育の質の向上研修を受講していますか。



②　郡山市保育の質の向上研修に対する意見・要望（自由記述・抜粋）

②　①で「ア：毎年、３名以上受講している」「イ：毎年、１～２名受講している」を選択した施設にお聞きします。郡山市保育の質の向上研修に対する意見、要望がありましたら、記載してください。

●研修を受けられる人数が決まっているので受講できない職員も多い。また年齢の差もあり、経験の差もあるので、研修の募集の人数を考えて欲しい。
●日々の慌ただしく立ち止まる時間の確保が難しい業務の中で、いったん立ち止まる時間と場所と知識を得て、今を振り返り、向かうべき先を考える機会となっている。
●施設内虐待防止の研修を希望。
●とても良い内容の研修が揃っていると思います。
●中堅保育士が多いので、その層の研修を充実していただけると、全員が参加出来ると思います。

等

③　郡山市保育の質の向上研修を受講したことがない理由（自由記述・抜粋）

③　①で「ウ：受講したことがない」「エ：以前は受講していたが、令和７年度は受講していない」を選択した施設にお聞きします。郡山市保育の質向上研修を受講したことがない、または、令和７年度は受講していない理由は何ですか。記載してください。

●県の講習を受けている
●他で受講した研修と内容が重複する部分が多かった。
●研修日時、場所等の調整が難しい
●職員の確保が難しいため
●案内を見逃していると思われる

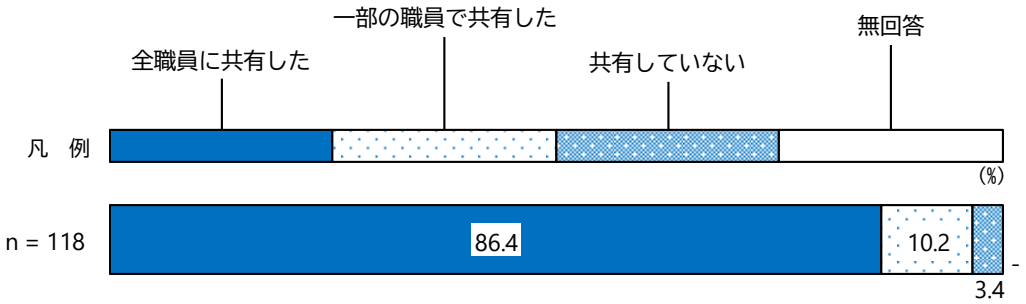
等

（３）施設内虐待の防止に関する取り組み

①　「保育所や幼稚園等における虐待の防止及び発生時の対応等に関するガイドライン」の共有

▶「保育所や幼稚園等における虐待の防止及び発生時の対応等に関するガイドライン」の共有について、「全職員に共有した」が 86.4%と最も高く、次いで「一部の職員で共有した」（10.2%）、「共有していない」（3.4%）となっている。

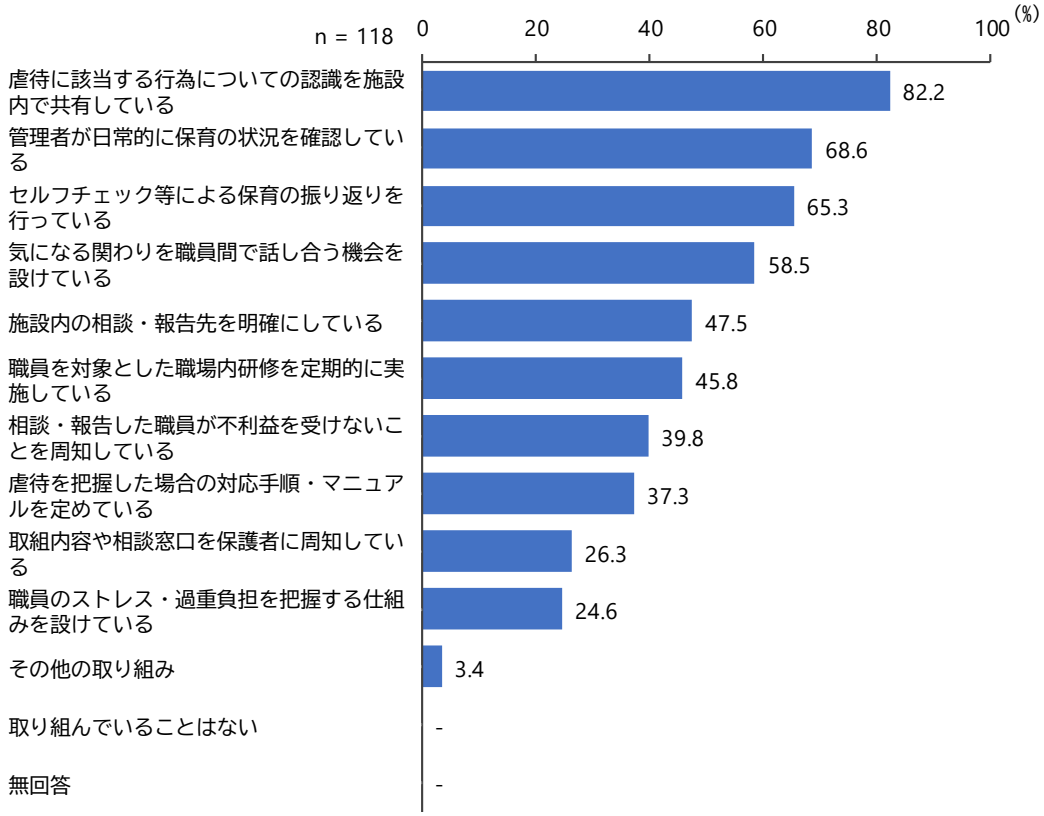
①　「保育所や幼稚園等における虐待の防止及び発生時の対応等に関するガイドライン（こども家庭庁、文部科学省）」について、内容を把握し施設内の職員で共有しましたか。



②　施設内虐待の防止等に関して、実際に取り組んでいること

▶施設内虐待の防止等に関して、実際に取り組んでいることについて、「虐待に該当する行為についての認識を施設内で共有している」が 82.2%と最も高く、次いで「管理者が日常的に保育の状況を確認している」(68.6%)、「セルフチェック等による保育の振り返りを行っている」(65.3%) となっている。

②　施設内虐待の防止等に関して、実際に取り組んでいることをお答えください。
（いくつでも）



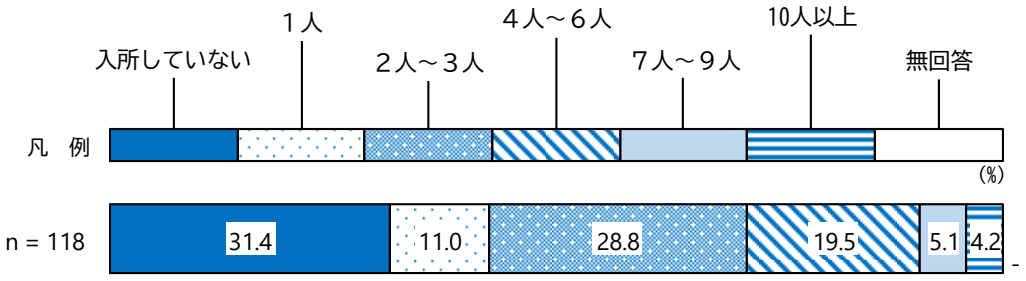
3　多様なニーズに対応した保育

（１）障がいのある児童について

①　障がいのある児童※の入所（園）数

▶令和８年４月１日現在の障がいのある児童の入所（園）数について、「入所していない」が 31.4%と最も高く、次いで「２人～３人」（28.8%）、「４人～６人」（19.5%）となっている。

①　令和８年４月１日現在、障がいのある児童は何人入所（園）していますか。

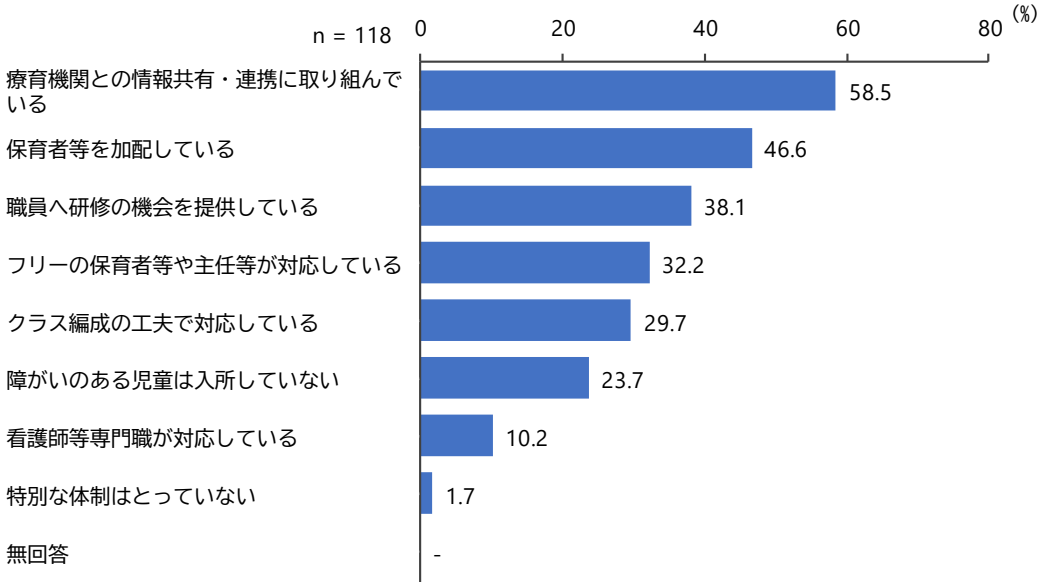


※医師から、身体障がい、知的障がい、精神障がい（発達障がいを含む）の診断を受けている児童

②　障がいのある児童の支援のためにとっている体制

▶障がいのある児童の支援のためにとっている体制について、「療育機関との情報共有・連携に取り組んでいる」が 58.5%と最も高く、次いで「保育者等を加配している」（46.6%）、「職員へ研修の機会を提供している」（38.1%）となっている。

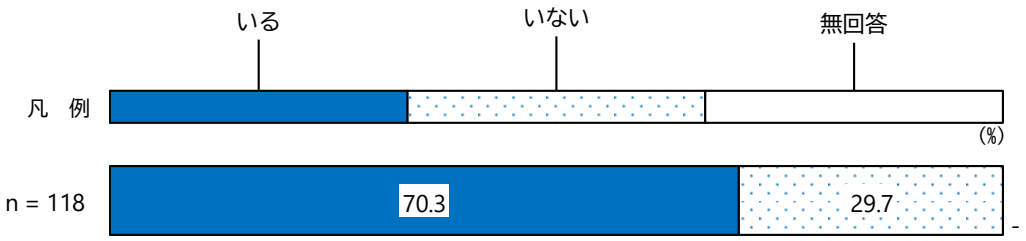
②　障がいのある児童の支援のために、どのような体制をとっていますか。（いくつでも）



③　入所（園）している児童で、療育機関に通っている児童の有無

▶入所(園)している児童で、療育機関に通っている児童の有無について、「いる」が 70.3%、「いない」が 29.7%となっている。

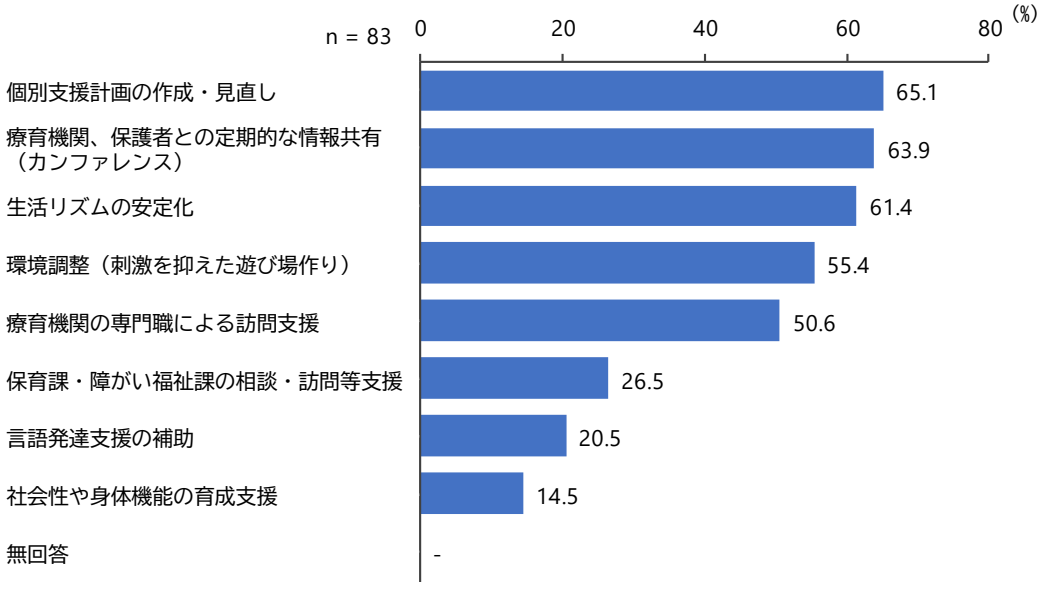
③　入所（園）している児童で、療育機関に通っている児童はいますか。



④　療育機関に通っている児童への支援

▶療育機関に通っている児童への支援について、「個別支援計画の作成・見直し」が 65.1%と最も高く、次いで「療育機関、保護者との定期的な情報共有（カンファレンス）」（63.9%）、「生活リズムの安定化」（61.4%）となっている。

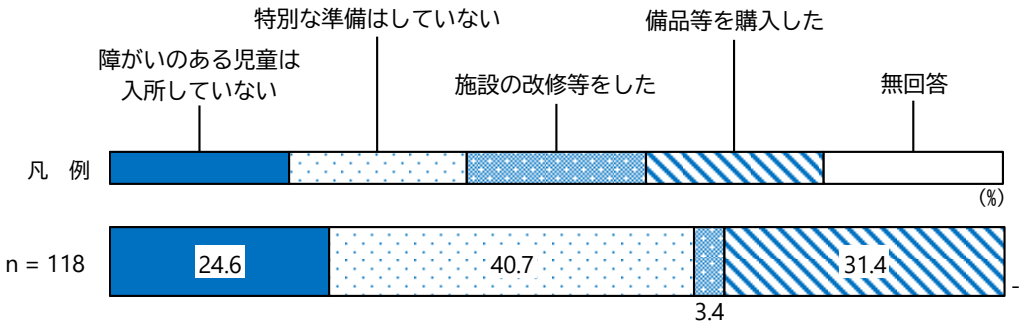
④　③で「ア：いる」と選択した施設に伺います。対象児童への支援について、どのような取組を行っていますか。（いくつでも）



⑤　障がいのある児童の入所（園）にあたり、ハード面で特別な準備をしたか

▶障がいのある児童の入所（園）にあたり、ハード面で特別な準備をしたかについて、「特別な準備はしていない」が 40.7%と最も高く、次いで「備品等を購入した」（31.4%）、「障がいのある児童は入所していない」（24.6%）となっている。

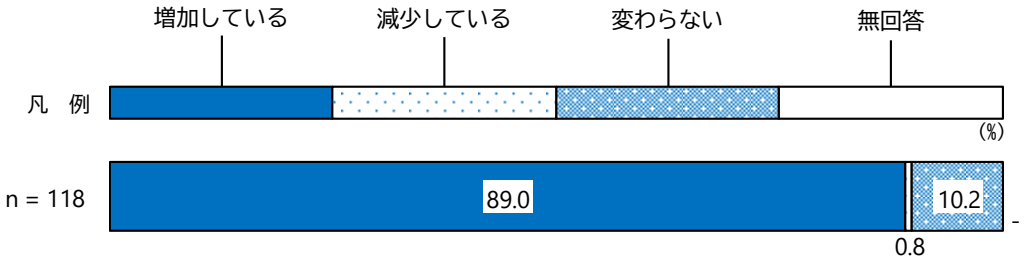
⑤　障がいのある児童の入所（園）にあたって、ハード面で特別な準備はしましたか。



⑥　障がいのある児童の人数の傾向

▶障がいのある児童の人数の傾向について、「増加している」が 89.0%と最も高く、次いで「変わらない」（10.2%）、「減少している」（0.8%）となっている。

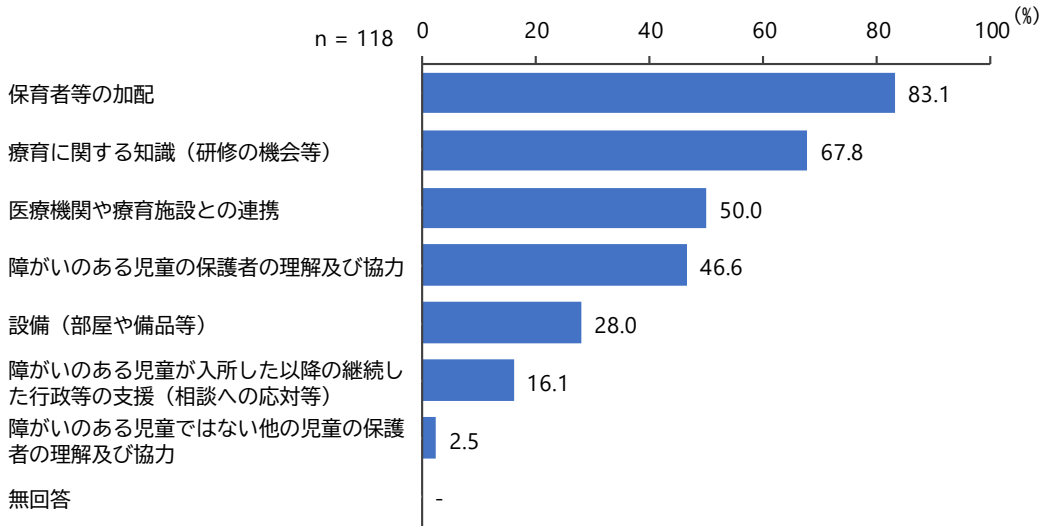
⑥　障がいのある児童の人数は、どのような傾向にあると思いますか。



⑦　障がいのある児童の受入にあたり、特に必要だと思うもの

▶障がいのある児童の受入にあたり、特に必要だと思うものについて、「保育者等の加配」が 83.1%と最も高く、次いで「療育に関する知識（研修の機会等）」（67.8%）、「医療機関や療育施設との連携」（50.0%）となっている。

⑦　障がいのある児童の受入にあたって特に必要だと思うものは、どのようなものですか。３つまで選択してください。



⑧　障がいのある児童への支援について、市への要望意見（自由記述・抜粋）

⑧　貴施設における障がいのある児童への支援について、市への要望・意見等がありましたら自由に記載してください。

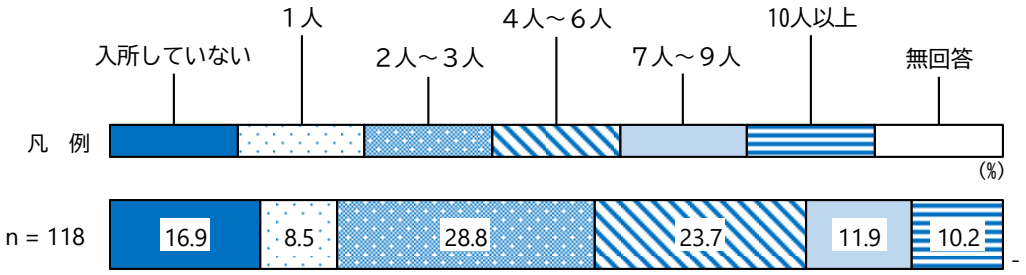
●保育者としては障害（特に発達障害）があると感じても、保護者が気付かない、または伝えても受け入れてくれない場合がある。伝えると「退園」につながってしまうことがある。保護者の感情を考慮しつつ、保育者、家庭共に子どもにとって最善の保育ができるガイドラインがあると助かる。
●医療機関や療育施設との連携がまだまだ不十分と感じます。関連機関とのコーディネートや保護者の相談窓口をもう少し受けやすいようにしてほしいです。
●加配が必要な為、療育加算額の検討が必要
●補助金を増額していただきたい。
●相談にのっていただき、保護者との間に入っていただき、良くしていただいております。
等

（２）特別な支援を要する児童について

①　特別な支援を要する児童※の入所（園）数

▶令和８年４月１日現在の特別な支援を要する児童の入所（園）数について、「２人～３人」が 28.8%と最も高く、次いで「４人～６人」（23.7%）、「入所していない」（16.9%）となっている。

①　令和８年４月１日現在、特別な支援を要する児童は何人入所（園）していますか。
※（１）の障がいのある児童の人数を除く

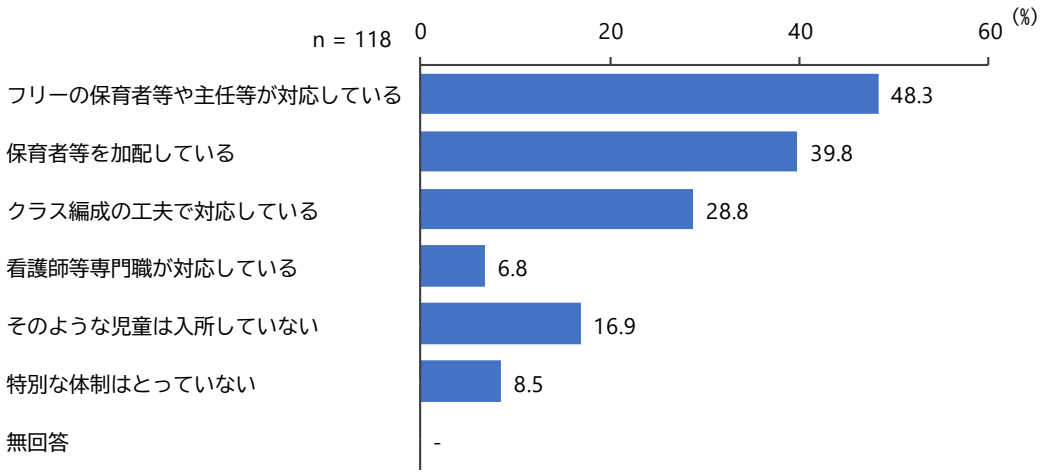


※医師から障がいの診断は受けていないが、何らかの障がいや発達の遅れが疑われる児童

②　特別な支援を要する児童の支援のためにとっている体制

▶特別な支援を要する児童の支援のためにとっている体制について、「フリーの保育者等や主任等が対応している」が 48.3%と最も高く、次いで「保育者等を加配している」（39.8%）、「クラス編成の工夫で対応している」（28.8%）となっている。

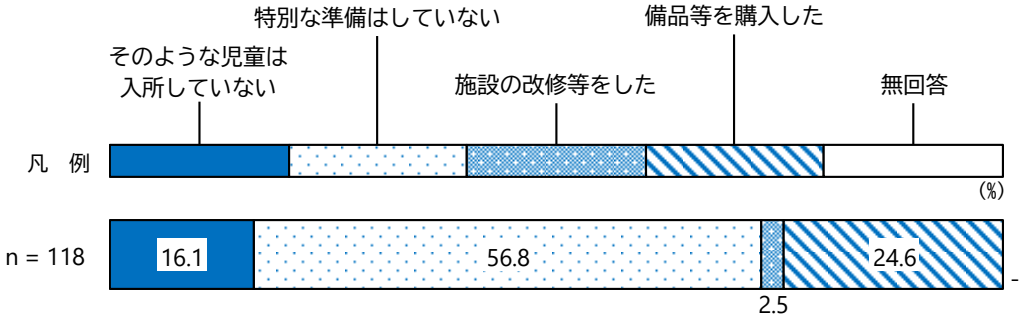
②　特別な支援を要する児童の支援のために、どのような体制をとっていますか。
（いくつでも）



③　特別な支援を要する児童の入所（園）にあたり、ハード面で特別な準備をしたか

▶特別な支援を要する児童の入所（園）にあたり、ハード面で特別な準備をしたかについて、「特別な準備はしていない」が 56.8%と最も高く、次いで「備品等を購入した」（24.6%）、「そのような児童は入所していない」（16.1%）となっている。

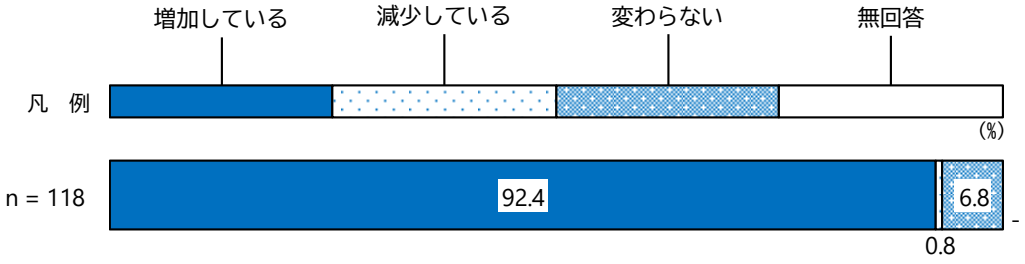
③　特別な支援を要する児童の入所（園）にあたって、ハード面で特別な準備はしましたか。



④　特別な支援を要する児童の人数の傾向

▶特別な支援を要する児童の人数の傾向について、「増加している」が 92.4%と最も高く、次いで「変わらない」（6.8%）、「減少している」（0.8%）となっている。

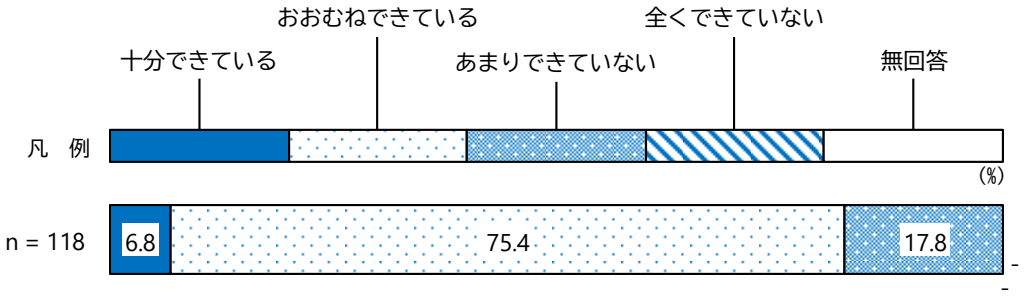
④　特別な支援を要する児童の人数は、どのような傾向にあると思いますか。



⑤　特別な支援を要する児童についての保護者との情報共有・相談

▶特別な支援を要する児童の障がいや発達の遅れが疑われる点の保護者との情報共有・相談について、「おおむねできている」が 75.4%と最も高く、次いで「あまりできていない」（17.8%）、「十分できている」（6.8%）となっている。

⑤　特別な支援を要する児童の障がいや発達の遅れが疑われる点について、保護者と情報共有や相談ができていますか。



⑥　保護者と情報共有できていない理由（自由記述・抜粋）

⑥　⑤で「ウ：あまりできていない」又は「エ：全くできていない」と回答した施設に伺います。保護者との情報共有や相談ができていない理由を記載してください。

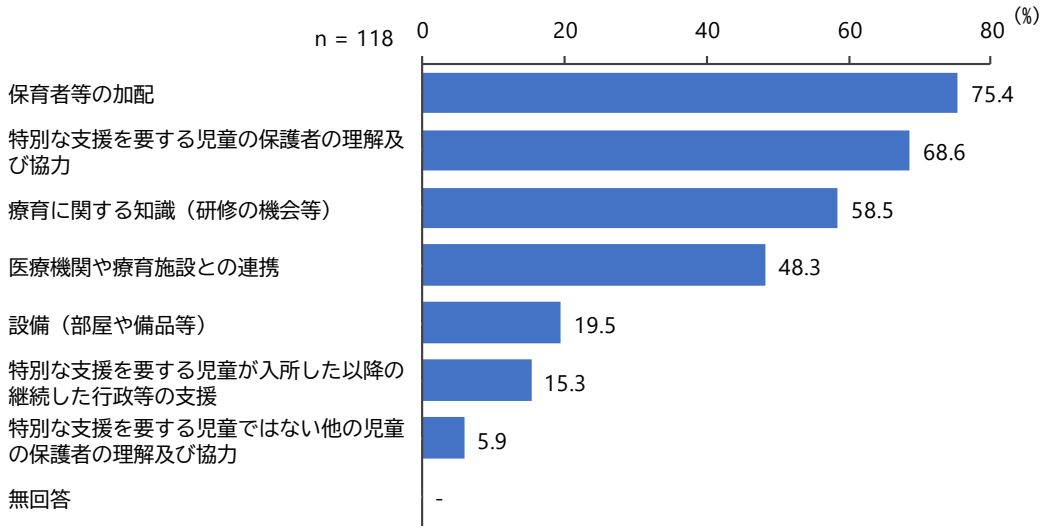
●保護者が、心配なことは何もないと話すため、あまり情報共有できない。
●普段の様子や子どもの困りごとを日々の送迎時や個別懇談などを通じて保護者に伝えているが、そこから先に進んでいない。
●個別に話し合いを設けようとすると、保護者が拒んだり、納得しないことで、話し合いの機会を設けることが出来ないまま、小学校へ行ってしまう。
●日中の様子をお伝えしても、保護者様が受け入れようとしない為
●家庭的に大変そうな児童なのであまり問題追言をしてしまうと親の気持ちが沈んでしまいそうになるので慎重になっている。

等

⑦　特別な支援を要する児童の受入にあたり、特に必要だと思うもの

▶特別な支援を要する児童の受入にあたり、特に必要だと思うものについて、「保育者等の加配」が 75.4%と最も高く、次いで「特別な支援を要する児童の保護者の理解及び協力」（68.6%）、「療育に関する知識（研修の機会等）」（58.5%）となっている。

⑦　特別な支援を要する児童の受入にあたって特に必要だと思うものは、どのようなものですか。３つまで選択してください。



⑧　特別な支援を要する児童への支援について、市への要望意見（自由記述・抜粋）

⑧　貴施設における特別な支援を要する児童への支援について、市への要望・意見等がありましたら自由に記載してください。

●療育まで繋がってもすぐに入れる事業所がない。また事業所が増えても、きちんと療育できていない所がある。
●市の健診時に「要観察」や「様子をみましょう」となった子の情報をお互いに共有。
●カウンセリング事業を今後も続けてほしい。
●１歳半健診の内容の工夫や改善
●補助金の増額を図っていただきたい。

等

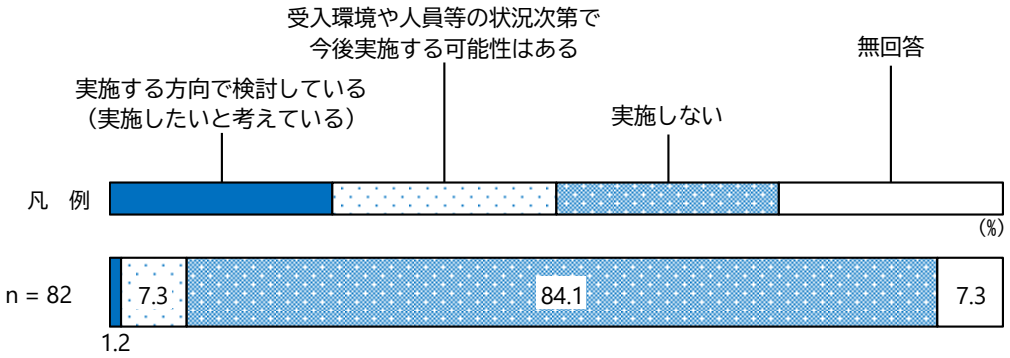
（３）多様な保育ニーズへの対応

①　休日保育の実施意向

▶休日保育の実施意向について、「実施しない」が 84.1%と最も高く、次いで「受入環境や人員等の状況次第で今後実施する可能性はある」（7.3%）、「実施する方向で検討している（実施したいと考えている）」（1.2%）となっている。

※認可保育施設（公立保育所、民間認可保育施設、小規模保育事業、事業所内保育事業、認定こども園）のみご回答ください。

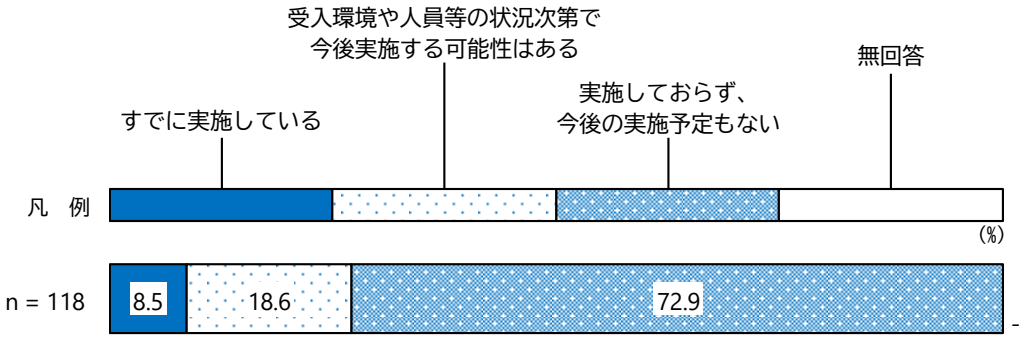
①　休日保育の実施意向をお答えください。



②　医療的ケア児の受け入れの実施

▶医療的ケア児の受け入れの実施について、「実施しておらず、今後の実施予定もない」が 72.9%と最も高く、次いで「受入環境や人員等の状況次第で今後実施する可能性はある」（18.6%）、「すでに実施している」（8.5%）となっている。

②　医療的ケア児の受け入れの実施についてお答えください。



4 家庭支援・地域に対する子育て支援

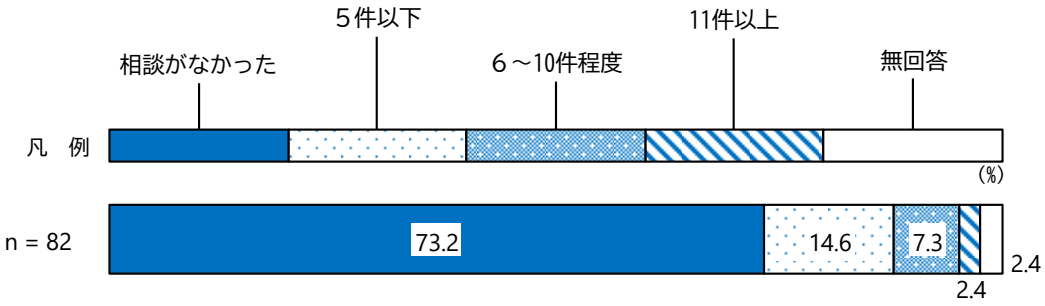
（１）入所児童以外の保護者に対する子育て支援の実施状況

①　入所児童以外の保護者からの子育てに関する相談件数

▶入所児童以外の保護者からの子育てに関する相談件数について、「相談がなかった」が73.2%と最も高く、次いで「５件以下」(14.6%)、「６～10 件程度」(7.3%）となっている。

※認可保育施設（公立保育所、民間認可保育施設、小規模保育事業、事業所内保育事業、認定こども園）のみご回答ください。

①　令和７年度に、入所児童以外の保護者(地域の子育て家庭等)から受け付けた子育てに関する相談件数をお答えください。

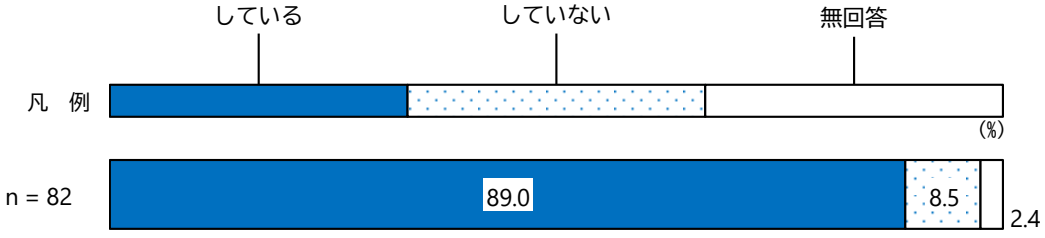


②　お便り、掲示、Ｗｅｂサイト等での子育て情報の提供

▶お便り、掲示、Ｗｅｂサイト等での子育て情報の提供について、「している」が 89.0%、「していない」が 8.5%となっている。

※認可保育施設（公立保育所、民間認可保育施設、小規模保育事業、事業所内保育事業、認定こども園）のみご回答ください。

②　お便り、掲示、Web サイト等で子育て情報の提供を実施していますか。

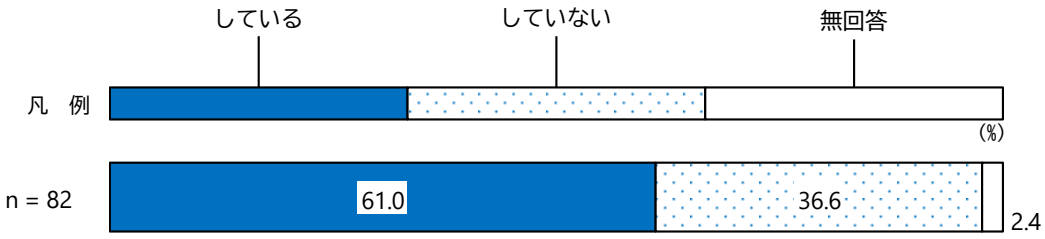


③　園庭の開放

▶園庭の開放について、「している」が 61.0%、「していない」が 36.6%となっている。

※認可保育施設（公立保育所、民間認可保育施設、小規模保育事業、事業所内保育事業、認定こども園）のみご回答ください。

③　園庭の開放をしていますか。

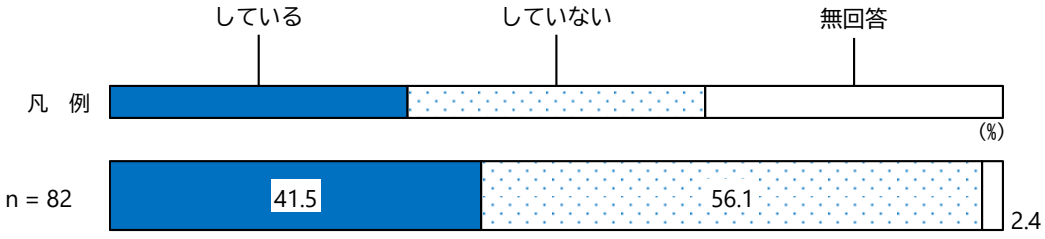


④　子育て講座・講演会などの実施

▶子育て講座・講演会などの実施について、「していない」が 56.1%、「している」が 41.5%となっている。

※認可保育施設（公立保育所、民間認可保育施設、小規模保育事業、事業所内保育事業、認定こども園）のみご回答ください。

④　子育て講座・講演会などを実施していますか。



⑤　入所児童以外の地域の子供が参加可能な行事について（自由記述・抜粋）

※認可保育施設（公立保育所、民間認可保育施設、小規模保育事業、事業所内保育事業、認定こども園）のみご回答ください。

⑤　その他、入所児童以外の地域の子どもが参加可能な行事等、子育て支援について内容を記載してください。

●運動会
●保育見学体験会
●サツマイモ堀り
●ハロウィンパーティー
●演劇鑑賞

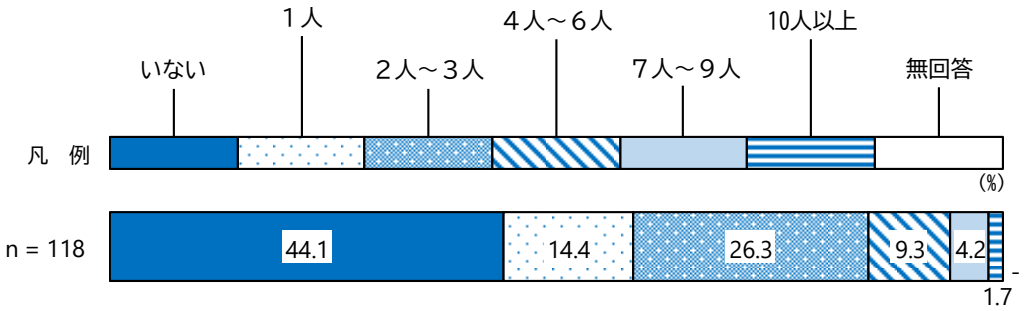
等

（２）特別な支援が必要と思われる保護者について

①　特別な支援が必要と思われる保護者※の数

▶特別な支援が必要と思われる保護者の数について、「いない」が 44.1%と最も高く、次いで「２人～３人」（26.3%）、「１人」（14.4%）となっている。

①　特別な支援が必要と思われる保護者は何人いますか。

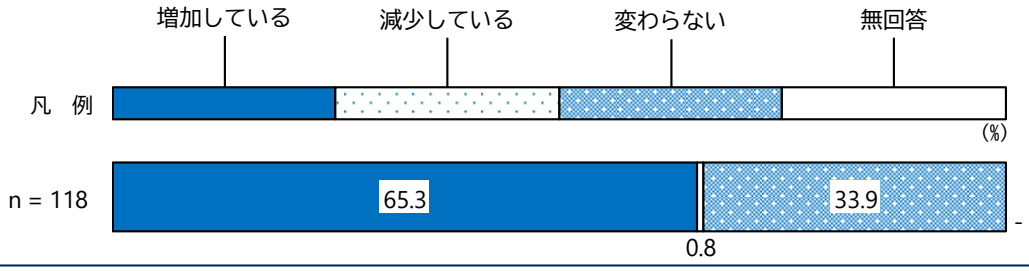


※子どもの栄養状態が悪い・無断欠席や遅刻が多い・子どもが不衛生・暴力や暴言又はネグレクト等虐待の疑いがある・しつけができていない・貧困などの理由により支援を必要とする保護者

②　特別な支援が必要と思われる保護者の人数の傾向

▶特別な支援が必要と思われる保護者の人数の傾向について、「増加している」が 65.3%と最も高く、次いで「変わらない」(33.9%)、「減少している」(0.8%）となっている。

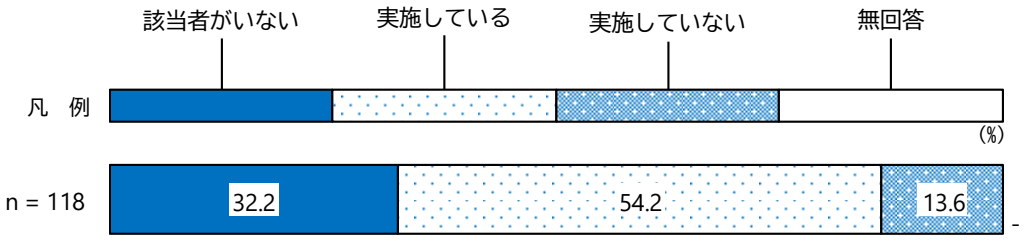
②　特別な支援が必要と思われる保護者の人数は、どのような傾向にあると感じますか。



③　特別な支援が必要と思われる保護者に対して、何らかの支援の実施

▶特別な支援が必要と思われる保護者に対して、何らかの支援の実施について、「実施している」が 54.2%と最も高く、次いで「該当者がいない」(32.2%)、「実施していない」(13.6%）となっている。

③　特別な支援が必要と思われる保護者に対して、個別相談など何らかの支援を実施していますか。



④　特別な支援を要する保護者への支援について、市への要望意見（自由記述・抜粋）

④　特別な支援が必要と思われる保護者の支援について、市への要望・意見等がありましたら自由に記載してください。

●保護者が相談しやすい窓口をわかりやすく提示してほしい。
●保護者全員にアンケートを取る等して状況を把握し、主導で支援を行ってほしい。
●定期的に、子ども家庭課が連絡をくれるので、情報共有できて安心できます。
●保健師との連携と、継続的な見守り。
●保護者支援が必要であろう保護者の情報提供を報告ができるようにしてもらいたい。精神的・身体的・経済的など不安定な家庭も多くなっていると思う。

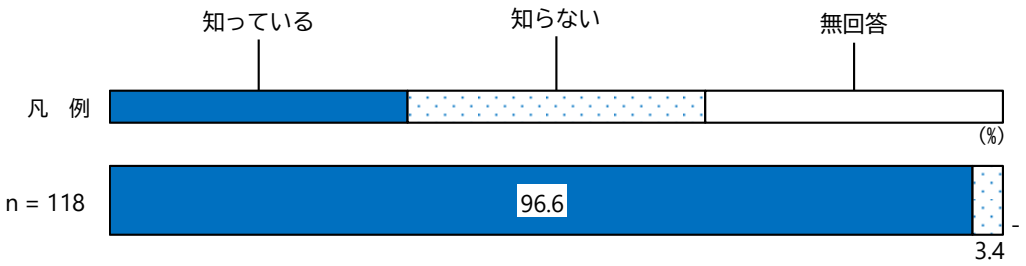
等

（３）地域の他施設・団体との連携や交流

①　【郡山市版】「架け橋プログラム」ガイドブックの認知度

▶【郡山市版】「架け橋プログラム」ガイドブックの認知度について、「知っている」が 96.6%、「知らない」が 3.4%となっている。

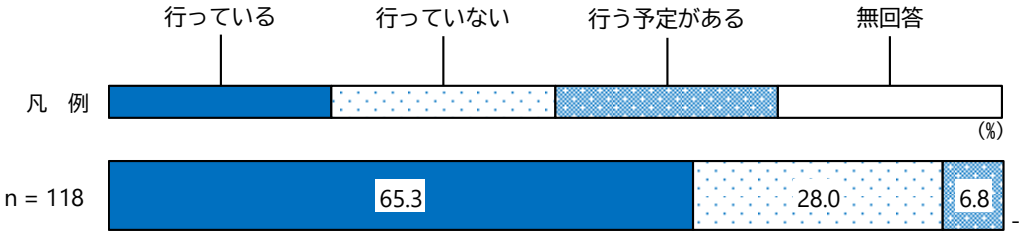
①　令和８年３月に策定した【郡山市版】「幼保小の架け橋プログラム」ガイドブックを知っていますか。



②　近隣の保育施設や幼稚園、小学校との連携や交流の有無

▶近隣の保育施設や幼稚園､小学校との連携や交流の有無について､｢行っている｣が65.3%と最も高く、次いで「行っていない」(28.0%)、｢行う予定がある」(6.8%）となっている。

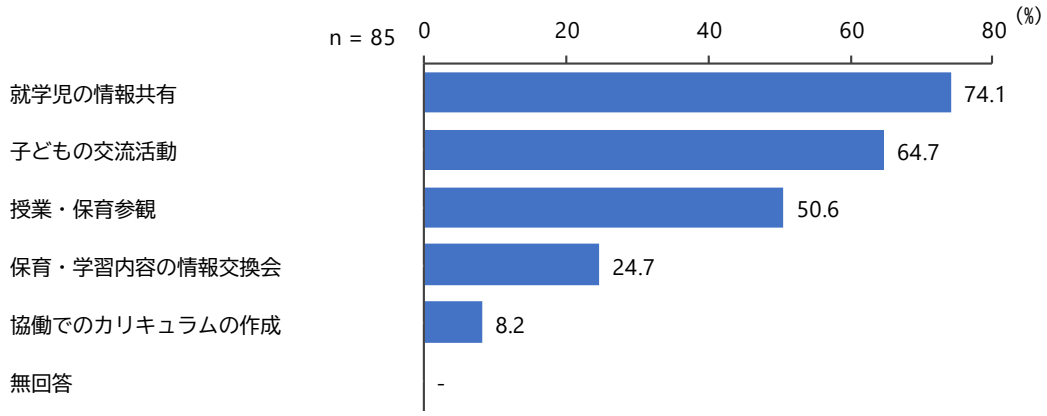
②　近隣の保育施設や幼稚園、小学校と連携や交流を行っていますか。



③　保育施設や幼稚園、小学校との連携や交流の内容

▶保育施設や幼稚園､小学校との連携や交流の内容について､｢就学児の情報共有」が74.1%と最も高く、次いで「子どもの交流活動」(64.7%)、｢授業・保育参観」(50.6%）となっている。

③　②で「ア：行っている」又は「ウ：行う予定がある」と回答した施設にお伺いします。どのような交流や連携か選択してください。(いくつでも)



④　近隣の保育施設や幼稚園、小学校との連携が難しい理由（自由記述・抜粋）

④　近隣の保育施設や幼稚園、小学校との連携が難しいと思う部分があれば内容を記載してください。

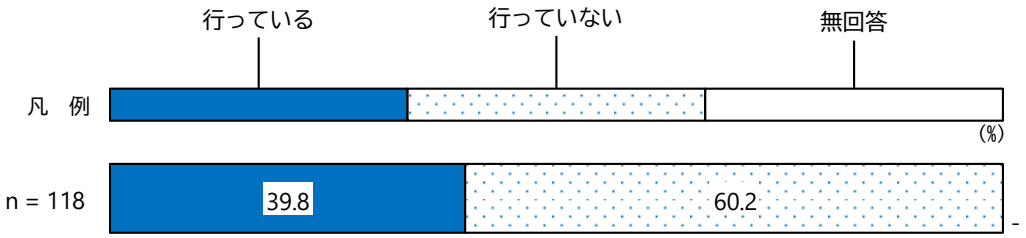
●毎年の交流をお願いしているが校長先生が変わり連携ができていない。
●小学校が遠いので交流が難しい。
●移動手段の確保
●交流の機会を増やしたいと提案したが、他の保育施設と交流しているのでと断られてしまった。子どもたちが徒歩で行ける場所は決まっているので、断られてしまうと困ってしまう。
●互いに、人員の配置。

等

⑤　近隣の公共施設(行政センター、公民館等)と連携や交流の有無

▶近隣の公共施設(行政センター、公民館等)と連携や交流の有無について、「行っていない」が 60.2%、「行っている」が 39.8%となっている。

⑤　近隣の公共施設(行政センター、公民館等)と連携や交流を行っていますか。



⑥　連携や交流を図っている地域の病院や高齢者施設等の団体（自由記述・抜粋）

⑥　その他、連携や交流を図っている地域の病院や高齢者施設等の団体がありましたら自由に記載してください。

●消防署、職場内研修に来てもらいＡＥＤ研修を開催している。
●高齢者施設、地域の病院
●デイサービスとの交流
●地域団体との苗植え交流
●専門学校

等

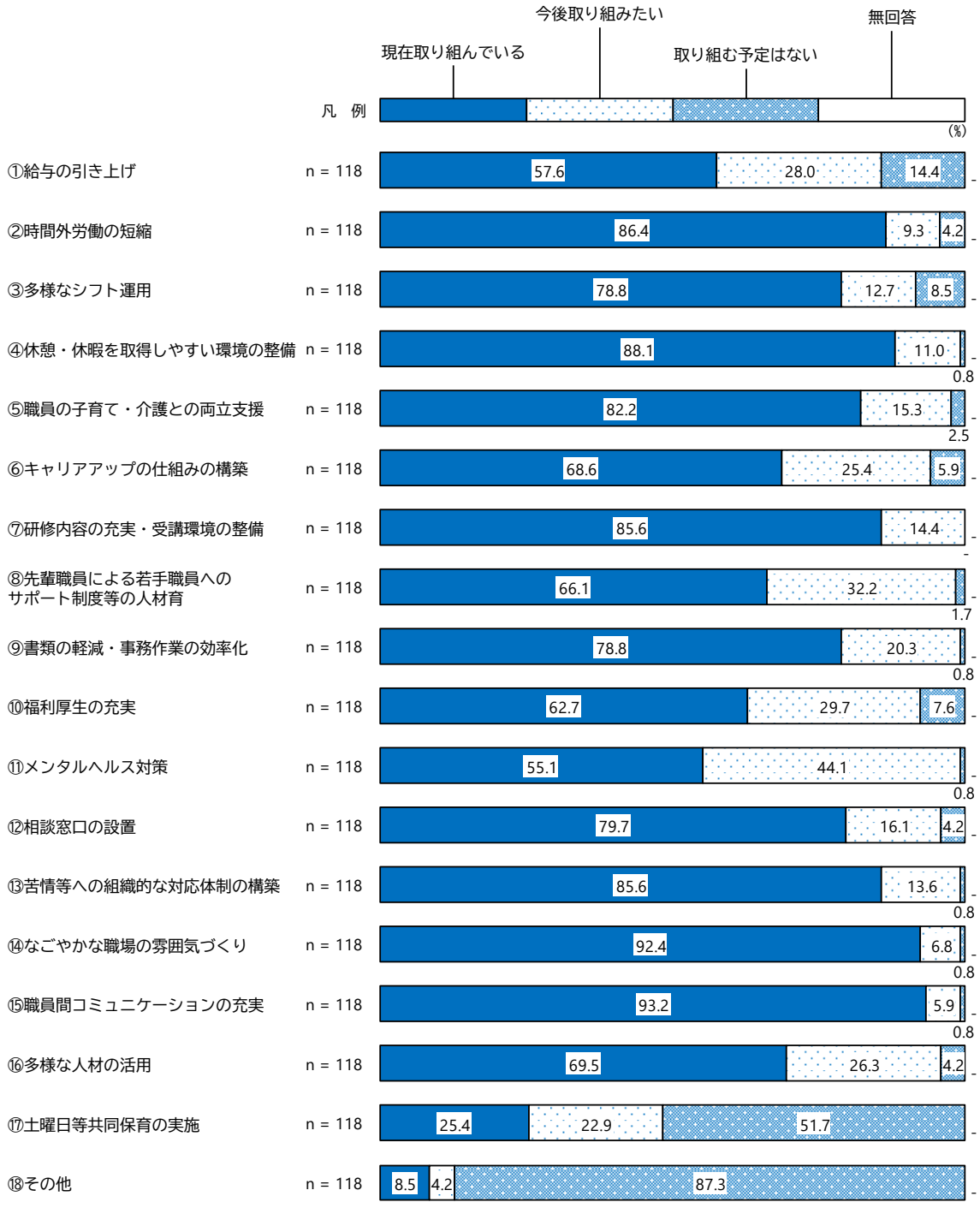
5 保育人材の確保・テクノロジーの活用等による業務改善

（１）保育者等の職場定着のための施設での取り組み状況

①～⑱　保育者等の職場定着のための施設での取り組み状況

▶保育者等の職場定着のための施設での取り組み状況について、「現在取り組んでいる」は『⑮職員間コミュニケーションの充実』（93.2%）、「今後取り組みたい」は『⑪メンタルヘルス対策』（44.1%）となっている。また、「取り組む予定はない」は『⑰土曜日等共同保育の実施』（51.7%）となっている。

①～⑱の各取り組みで「現在取り組んでいる、今後取り組みたい、取り組む予定はない」のいずれかをご回答ください。

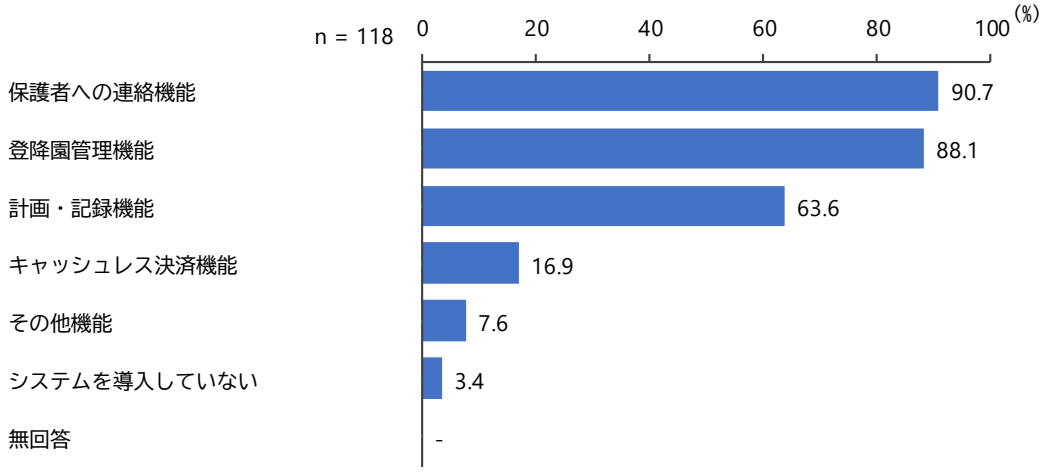


（２）施設における保育ＤＸの状況

①　保育（幼稚園）業務支援システムの導入や活用している機能

▶保育（幼稚園）業務支援システムの導入や活用している機能について、「保護者への連絡機能」が 90.7%と最も高く、次いで「登降園管理機能」（88.1%）、「計画・記録機能」（63.6%）となっている。

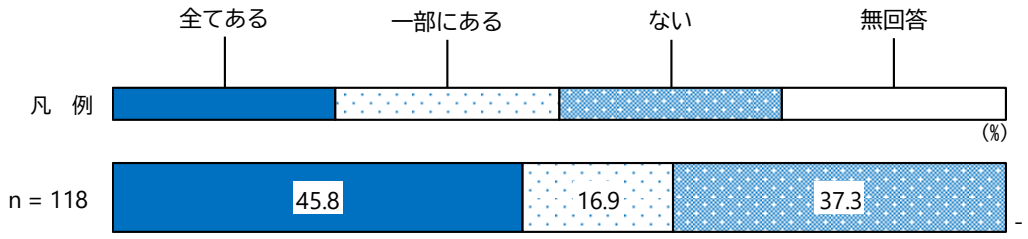
①　児童の登降園管理などを行う保育（幼稚園）業務支援システムについて、施設での導入や活用している機能をお答えください。（いくつでも）



②　保育室に安全管理のためのモニターカメラがあるか

▶保育室に安全管理のためのモニターカメラがあるかについて、「全てある」が 45.8%と最も高く、次いで「ない」（37.3%）、「一部にある」（16.9%）となっている。

②　保育室に安全管理のためのモニターカメラはありますか。

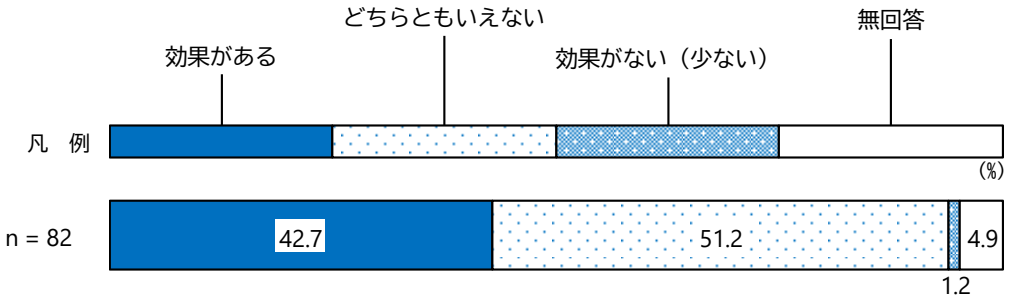


③　電子申請の推進は業務改善・効率化に効果があるか

▶電子申請の推進は業務改善・効率化に効果があるかについて、「どちらともいえない」が51.2%と最も高く、次いで「効果がある」（42.7%）、「効果がない（少ない）」（1.2%）となっている。

※認可保育施設（公立保育所、民間認可保育施設、小規模保育事業、事業所内保育事業、認定こども園）のみご回答ください。

③　本市では、入所申請等の電子申請を推進しています。電子申請の推進は、施設における業務改善、効率化に効果がありますか。



④　保育業務施設管理プラットフォームや保活情報連携基盤の施設での導入についての課題・疑問（自由記述・抜粋）

※認可保育施設（公立保育所、民間認可保育施設、小規模保育事業、事業所内保育事業、認定こども園）のみご回答ください。

④　国が進める保育業務施設管理プラットフォームや保活情報連携基盤の施設での導入について、課題や疑問がありましたら自由に記載してください。

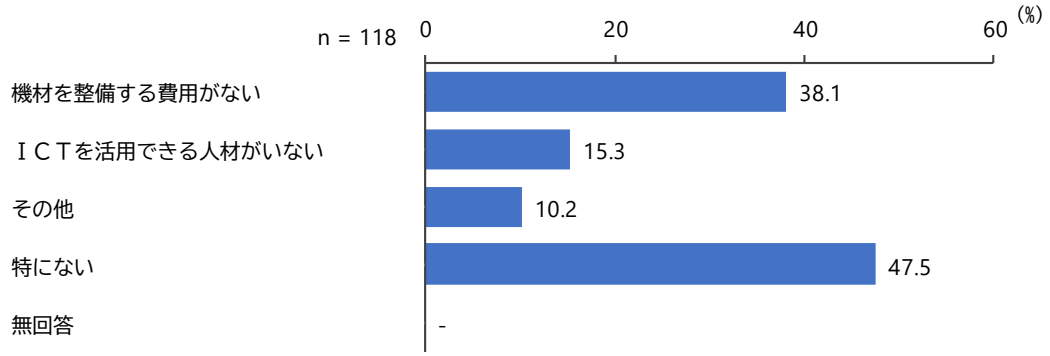
●国主導の新しいシステムは専門用語が多く、画面操作手順が複雑。シンプルにしてほしい。
●システムに慣れるまでに何度か研修をしないと、スムーズに運用できないと思う。
●デジタル機器やその使い方・考え方に強い方がいないとお手上げになってしまう危険がある。
●園で独自に取り入れていたものがあり、切り替えが面倒。
●簡単にしていただきたい。

等

⑤　保育ＤＸに取り組むうえでの課題

▶保育ＤＸに取り組むうえでの課題について、「機材を整備する費用がない」が 38.1%と最も高く、次いで「ＩＣＴを活用できる人材がいない」(15.3%)、「その他」(10.2%)となっている。また、「特にない」は 47.5%となっている。

⑤　保育ＤＸに取り組むうえでの課題をお答えください。（いくつでも）

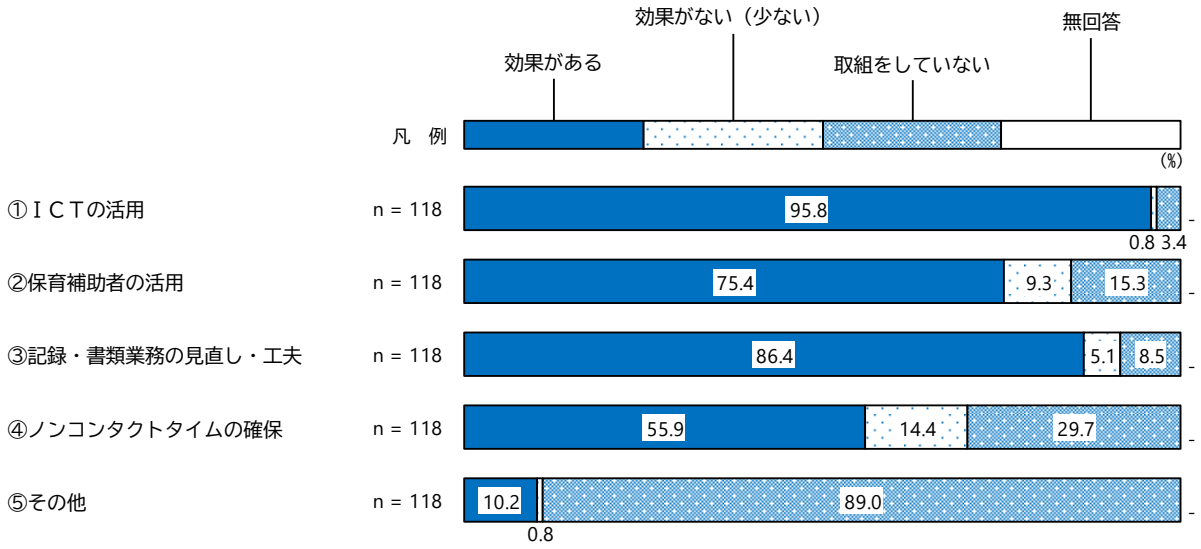


（３）施設における業務改善の取り組みの業務負担軽減の効果

①～⑤　業務負担軽減の効果

▶業務負担軽減の効果について、「効果がある」では、『①ＩＣＴの活用』が 95.8%と最も高く、次いで『③記録・書類業務の見直し・工夫』(86.4%)、『②保育補助者の活用』(75.4%)となっている。

①～⑤の各取り組みで「効果がある、効果がない（少ない）、取組をしていない」のいずれかをご回答ください。

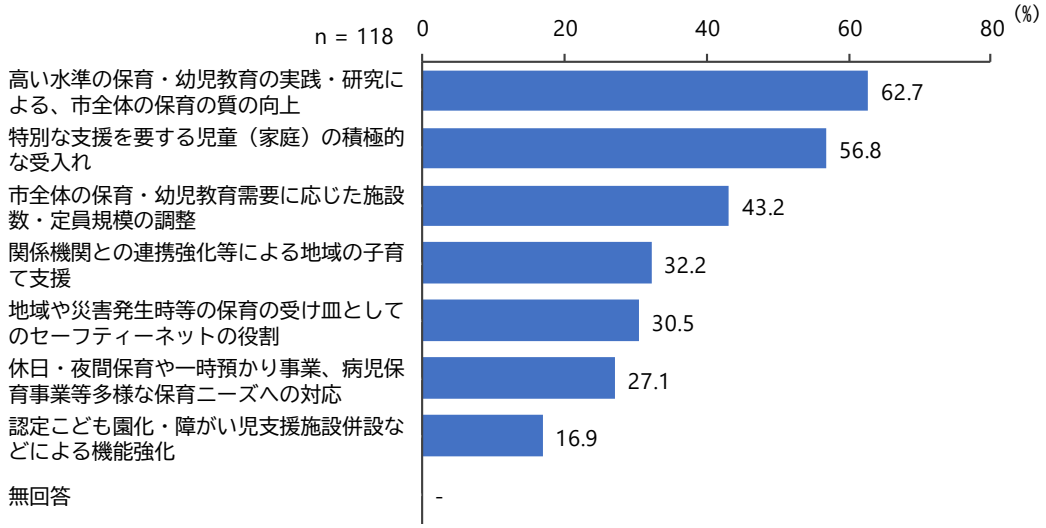


6 保育・幼児教育に関する市の支援

（１）本市公立保育所に求められる役割で特に必要だと思うもの

▶本市公立保育所に求められる役割で特に必要だと思うものについて、「高い水準の保育・幼児教育の実践・研究による、市全体の保育の質の向上」が 62.7%と最も高く、次いで「特別な支援を要する児童（家庭）の積極的な受入れ」（56.8%）、「市全体の保育・幼児教育需要に応じた施設数・定員規模の調整」（43.2%）となっている。

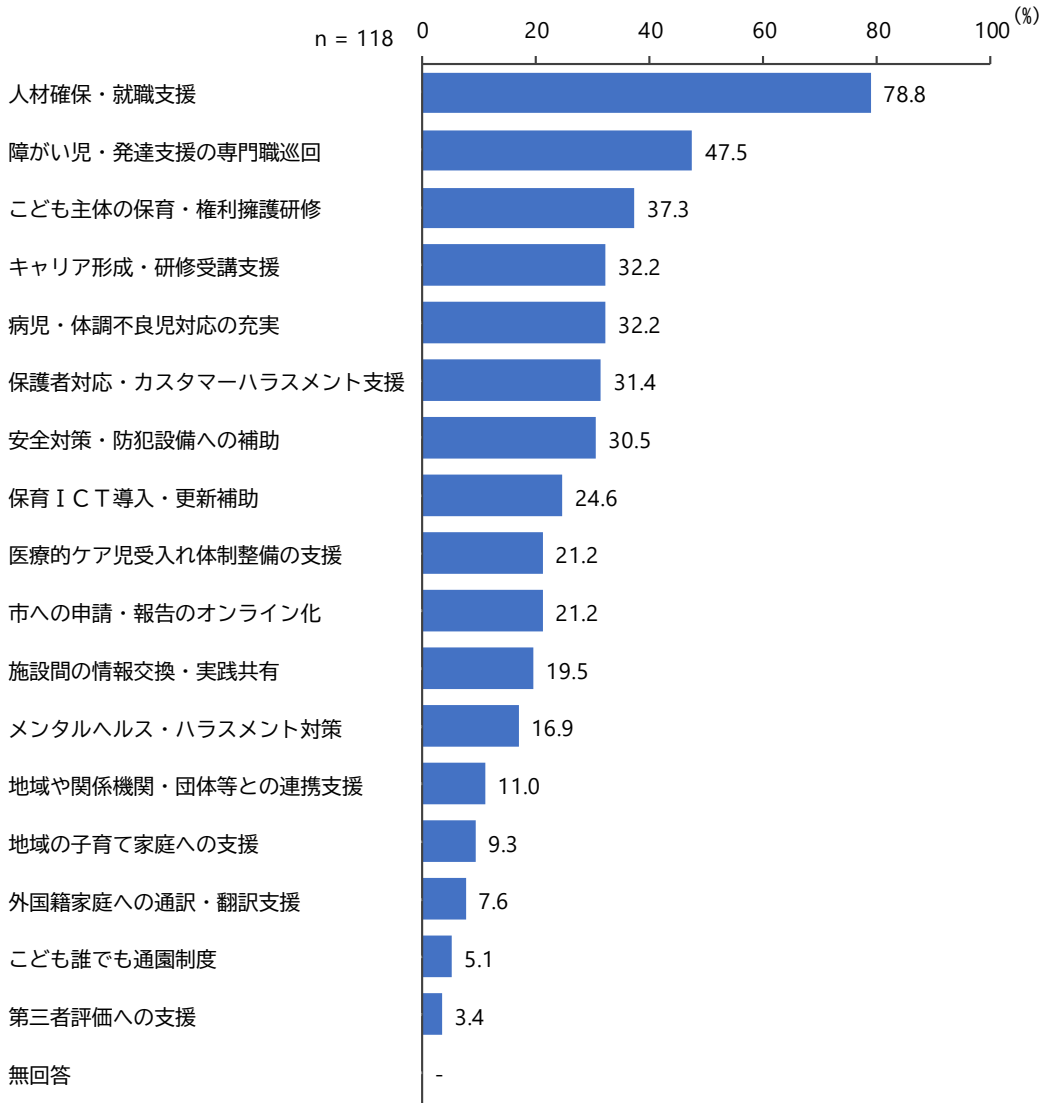
（１）　本市公立保育所に求められる役割について、特に必要だと思うものを３つまで選択してください。



（２）本市における保育・幼児教育で市が重点的に取り組むべき施策

▶本市における保育・幼児教育で市が重点的に取り組むべき施策について、「人材確保・就職支援」が 78.8%と最も高く、次いで「障がい児・発達支援の専門職巡回」（47.5%）、「こども主体の保育・権利擁護研修」（37.3%）となっている。

（２）　本市における保育・幼児教育に関して、市が重点的に取り組むべき施策について５つまで選択してください。

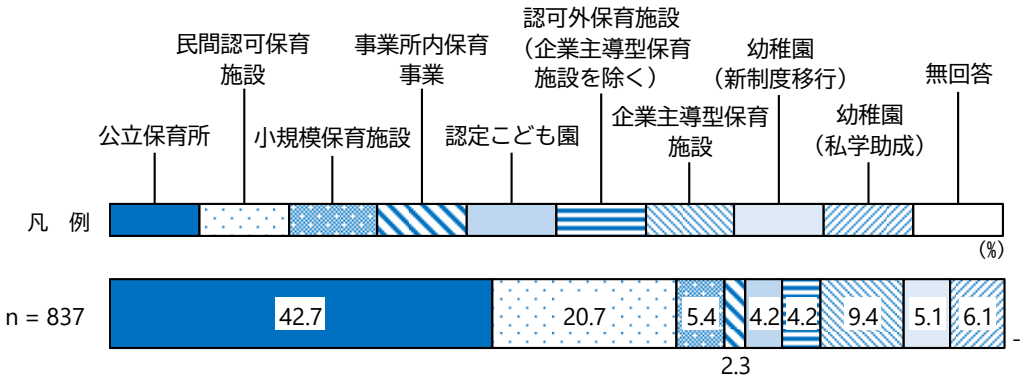


Ⅲ 調査結果（保育者アンケート）

1　現在就業している施設の類型

▶現在就業している施設の類型について、「公立保育所」が 42.7%と最も高く、次いで「民間認可保育施設」（20.7%）、「企業主導型保育施設」（9.4%）となっている。

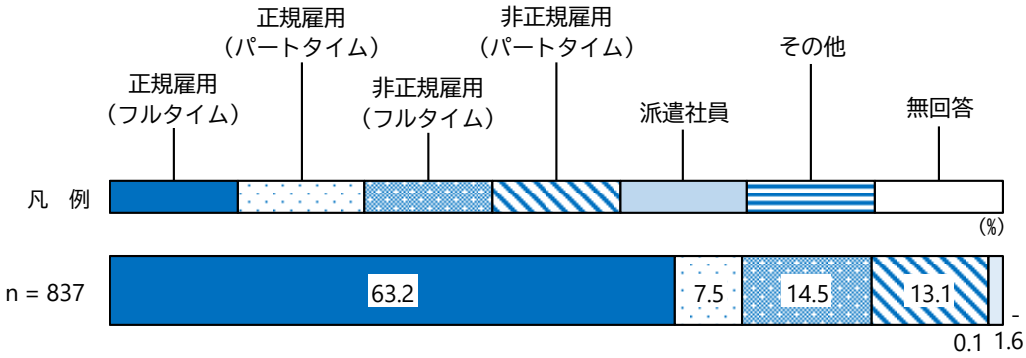
1　現在就業している施設の類型について、当てはまるものを選択してください。



2　現在の雇用形態

▶現在の雇用形態について、「正規雇用（フルタイム）」が 63.2%と最も高く、次いで「非正規雇用（フルタイム）」（14.5%）、「非正規雇用（パートタイム）」（13.1%）となっている。

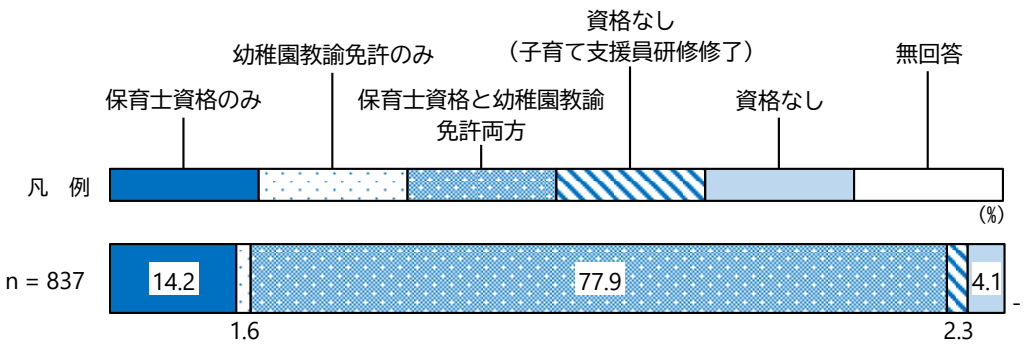
2　現在の雇用形態について、当てはまるものを選択してください。



3　資格所有状況

▶資格所有状況について、「保育士資格と幼稚園教諭免許両方」が 77.9%と最も高く、次いで「保育士資格のみ」（14.2%）、「資格なし」（4.1%）となっている。

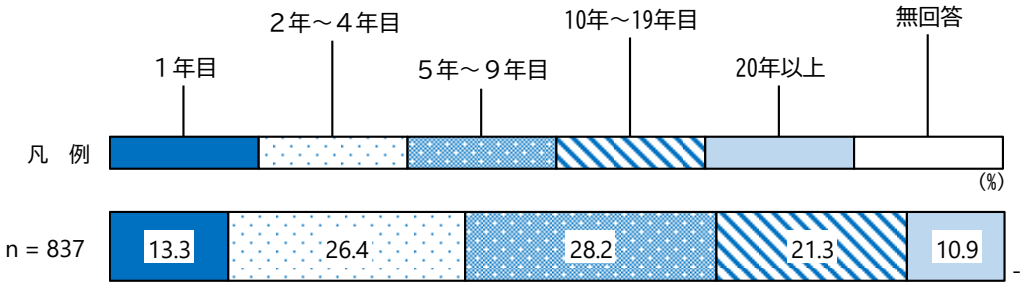
3　資格所有状況について、当てはまるものを選択してください。



4　現在の施設での就業年数

▶現在の施設での就業年数について、「５年～９年目」が 28.2%と最も高く、次いで「２年～４年目」（26.4%）、「10 年～19 年目」（21.3%）となっている。

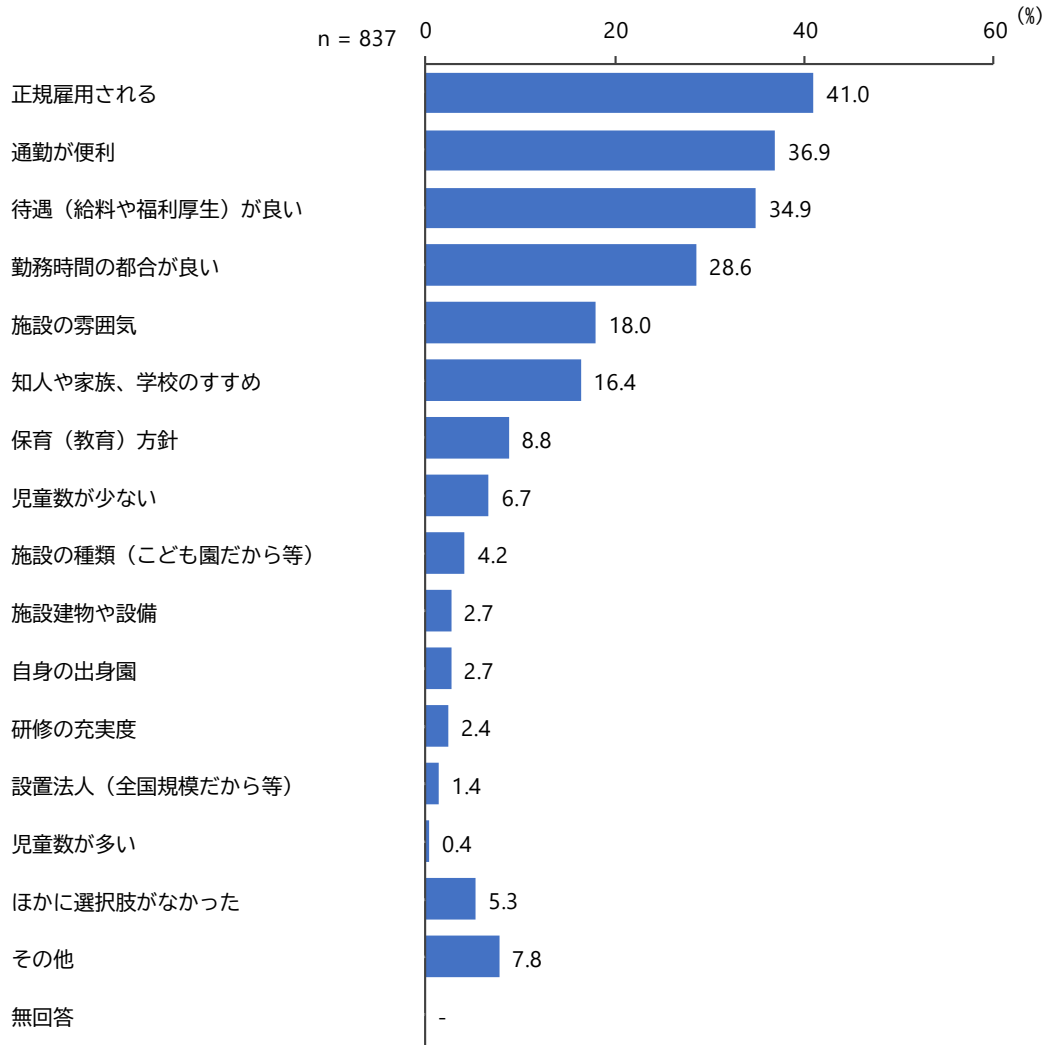
4　現在の施設での就業年数は何年目ですか。



5　現在就業している施設を選択した理由

▶現在就業している施設を選択した理由について、「正規雇用される」が 41.0%と最も高く、次いで「通勤が便利」（36.9%）、「待遇（給料や福利厚生）が良い」（34.9%）となっている。

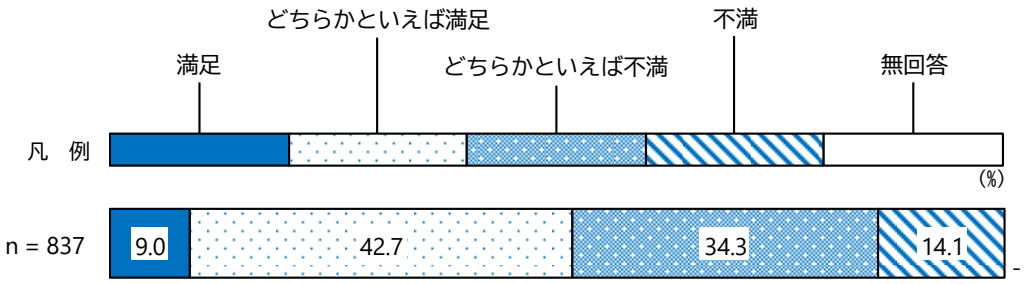
5　現在就業している施設を選択した理由は何ですか。特に大きな理由を３つまで選択してください。



6　現在の就業環境における、収入の満足度

▶現在の就業環境における、収入の満足度について、「どちらかといえば満足」が 42.7%と最も高く、次いで「どちらかといえば不満」（34.3%）、「不満」（14.1%）となっている。

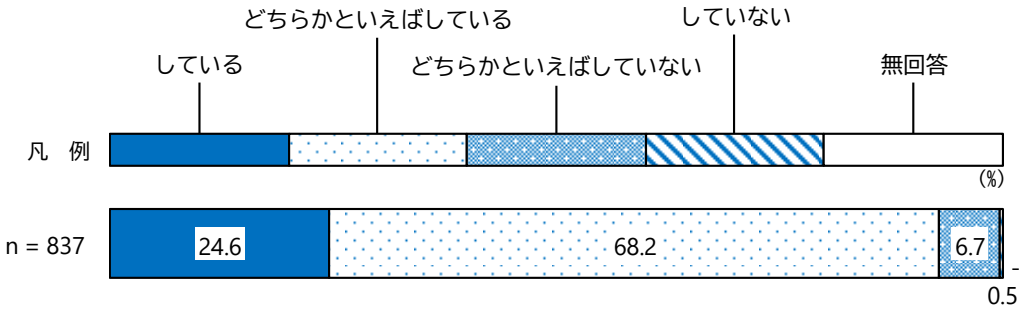
6　現在の就業環境における、収入に満足していますか。



7　保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領または幼稚園教育要領を理解し業務にいかしているか

▶保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領または幼稚園教育要領を理解し業務にいかしているかについて、「どちらかといえばしている」が 68.2%と最も高く、次いで「している」（24.6%）、「どちらかといえばしていない」（6.7%）となっている。

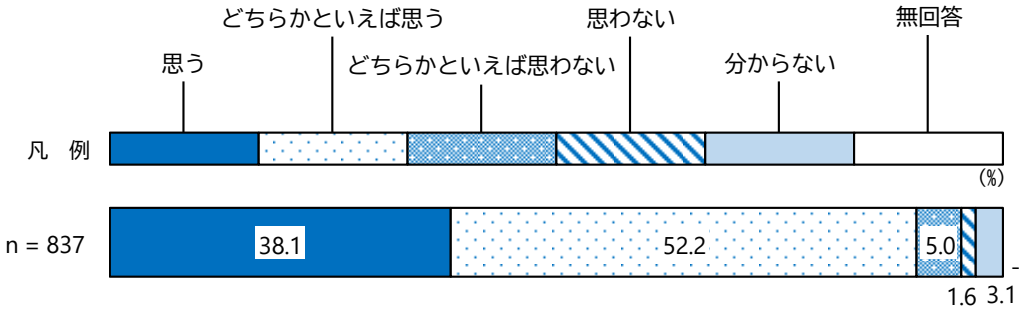
7　保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領または幼稚園教育要領の内容を十分に理解し、保育・幼児教育業務にいかしていますか。



8　保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領または幼稚園教育要領に沿った保育・幼児教育を実施しているか

▶保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領または幼稚園教育要領に沿った保育・幼児教育を実施しているかについて、「どちらかといえば思う」が 52.2%と最も高く、次いで「思う」（38.1%）、「どちらかといえば思わない」（5.0%）となっている。

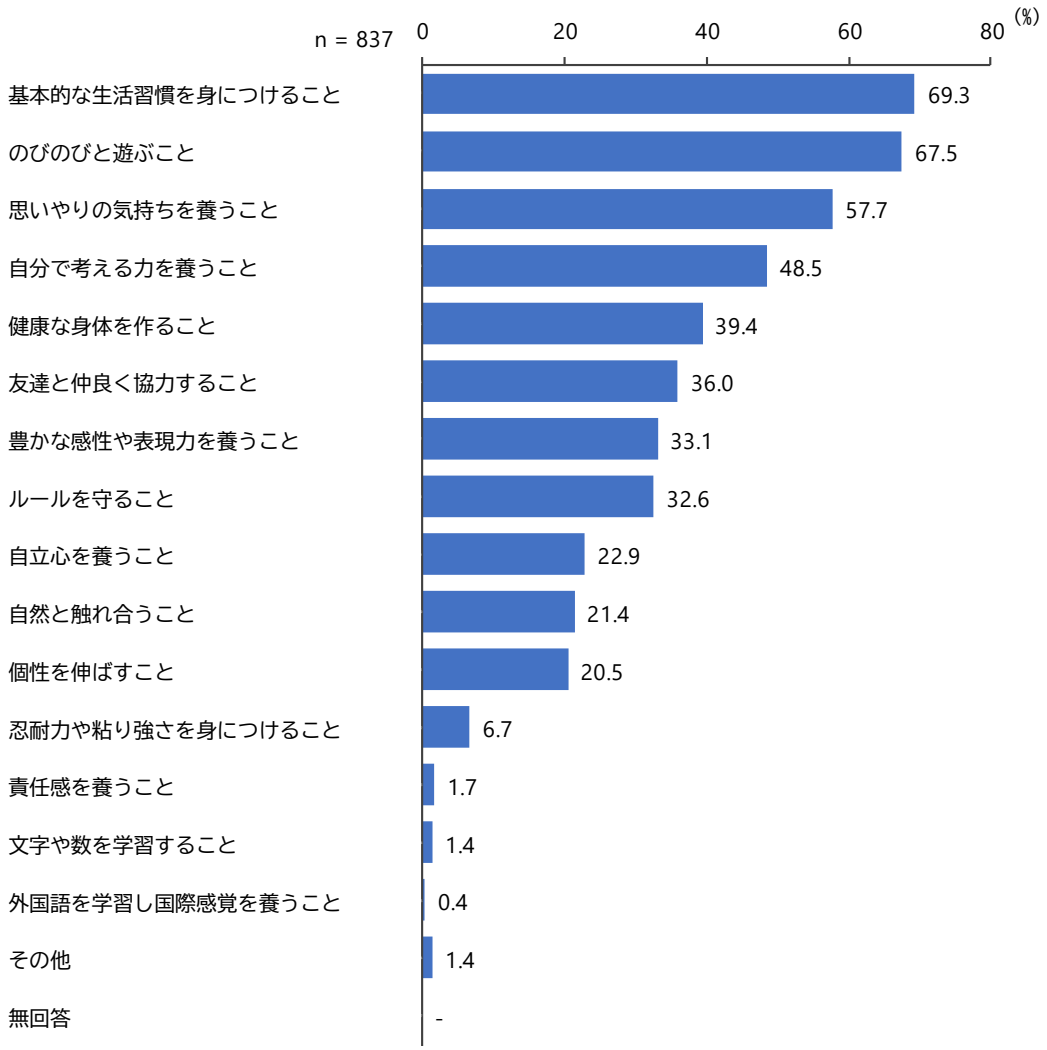
8　現在就業している施設では、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領または幼稚園教育要領の内容に沿った保育・幼児教育を実施している（しようとしている）と思いますか。



9　保育・幼児教育業務で特に重視していること

▶保育・幼児教育業務で特に重視していることについて、「基本的な生活習慣を身につけること」が 69.3%と最も高く、次いで「のびのびと遊ぶこと」（67.5%）、「思いやりの気持ちを養うこと」（57.7%）となっている。

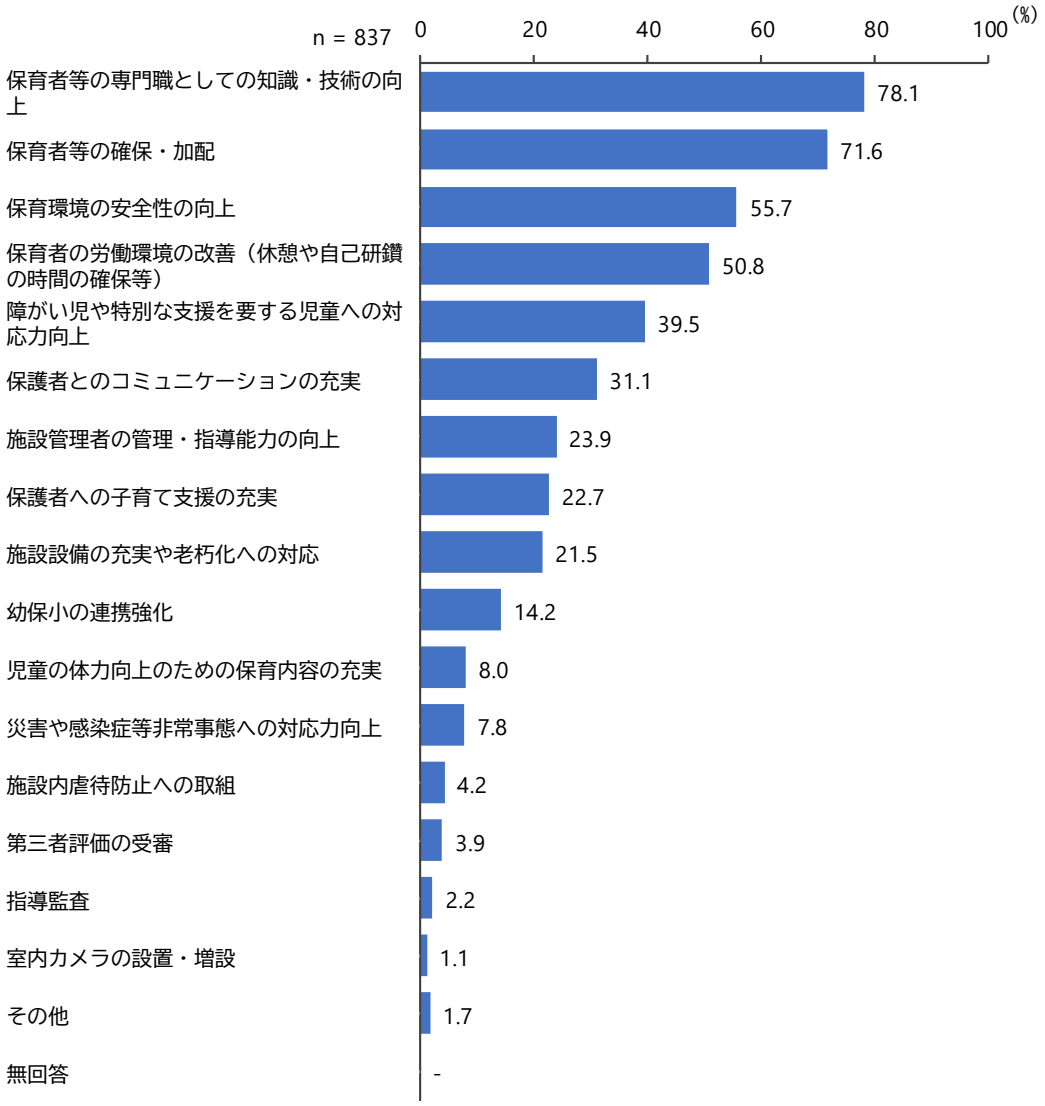
9　保育・幼児教育業務で、特に重視していることを５つまで選択してください。



10　保育・幼児教育の質の向上のために特に必要だと思うもの

▶保育・幼児教育の質の向上のために特に必要だと思うものについて、「保育者等の専門職としての知識・技術の向上」が 78.1%と最も高く、次いで「保育者等の確保・加配」（71.6%）、「保育環境の安全性の向上」（55.7%）となっている。

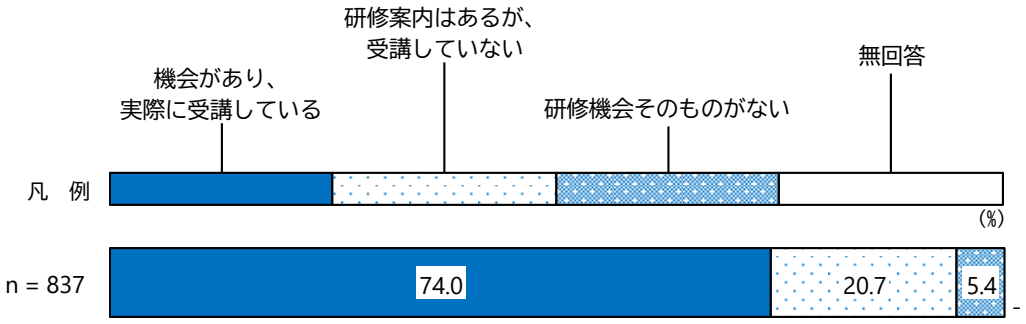
10　保育・幼児教育の質の向上のために特に必要だと思うものを５つまで選択してください。



11　現在の職場での園外研修の機会

▶現在の職場での園外研修の機会について、「機会があり、実際に受講している」が 74.0%と最も高く、次いで「研修案内はあるが、受講していない」（20.7%）、「研修機会そのものがない」（5.4%）となっている。

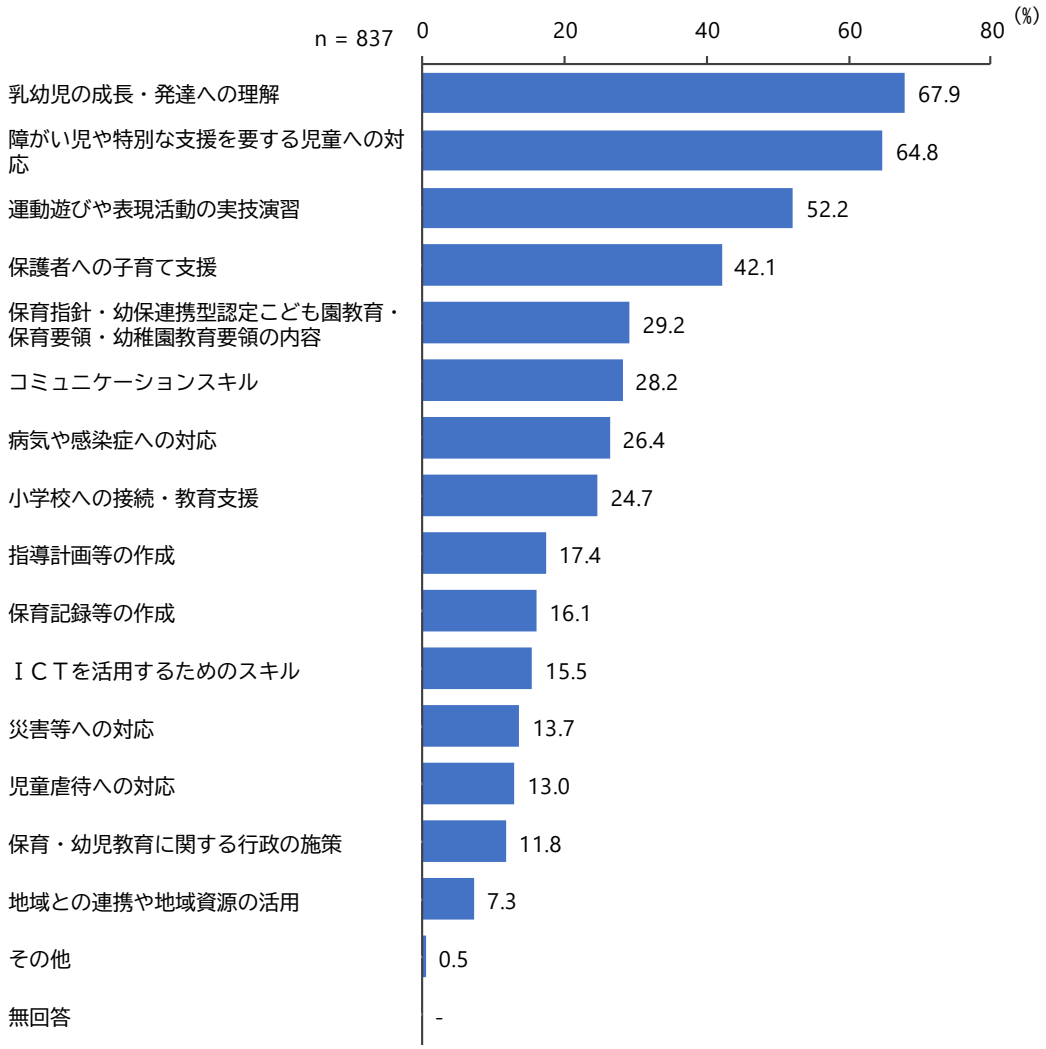
11　現在の職場での園外研修の機会をお答えください。



12　今後、保育・幼児教育者として、習得又は向上したい知識や技術

▶今後、保育・幼児教育者として、習得又は向上したい知識や技術について、「乳幼児の成長・発達への理解」が 67.9%と最も高く、次いで「障がい児や特別な支援を要する児童への対応」（64.8%）、「運動遊びや表現活動の実技演習」（52.2%）となっている。

12　今後、保育・幼児教育者として、どのような知識や技術を習得又は向上したいと思いますか。特に優先度の高いものを５つまで選択してください。

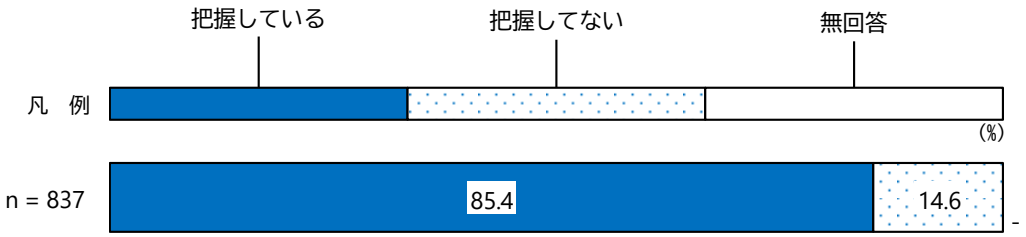


13　施設内虐待の防止に関する理解・職場環境について

（１）「保育所や幼稚園等における虐待の防止及び発生時の対応等に関するガイドライン」の把握

▶「保育所や幼稚園等における虐待の防止及び発生時の対応等に関するガイドライン」の把握について、「把握している」が 85.4%、「把握してない」が 14.6%となっている。

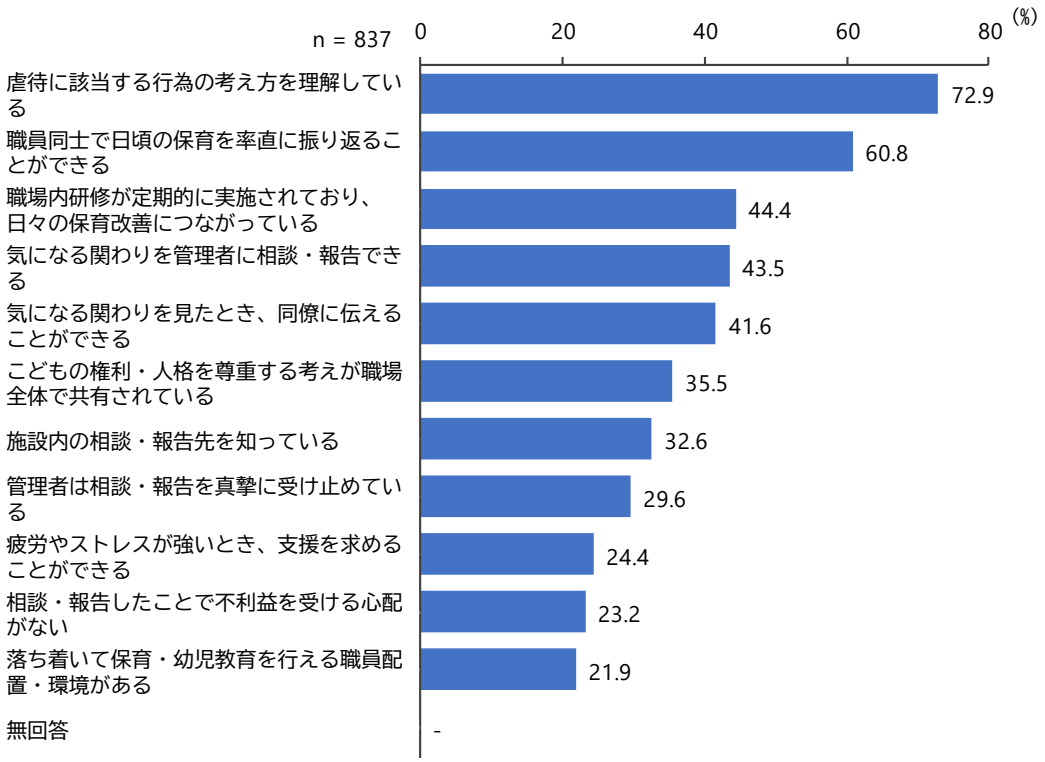
（１）　「保育所や幼稚園等における虐待の防止及び発生時の対応等に関するガイドライン（こども家庭庁、文部科学省）」を把握していますか。



（２）虐待の防止に関する理解や職場の状況

▶虐待の防止に関する理解や職場の状況について、「虐待に該当する行為の考え方を理解している」が 72.9%と最も高く、次いで「職員同士で日頃の保育を率直に振り返ることができる」（60.8%）、「職場内研修が定期的に実施されており、日々の保育改善につながっている」（44.4%）となっている。

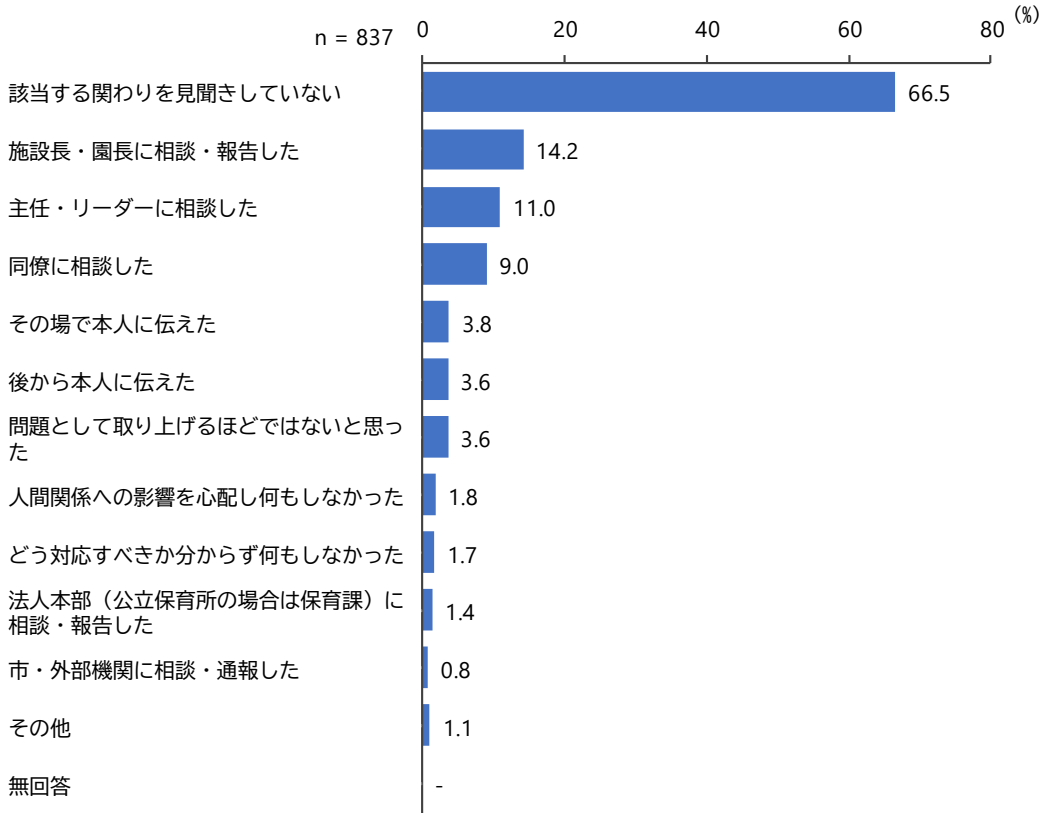
（２）　虐待の防止に関する理解や職場の状況について、あてはまるものをお答えください。（いくつでも）



（３）過去１年間での、虐待につながる可能性のある関わりや、気になる関わりを見聞きした場合の対応

▶過去１年間での、虐待につながる可能性のある関わりや、気になる関わりを見聞きした場合の対応について、「該当する関わりを見聞きしていない」が 66.5%と最も高く、次いで「施設長・園長に相談・報告した」（14.2%）、「主任・リーダーに相談した」（11.0%）となっている。

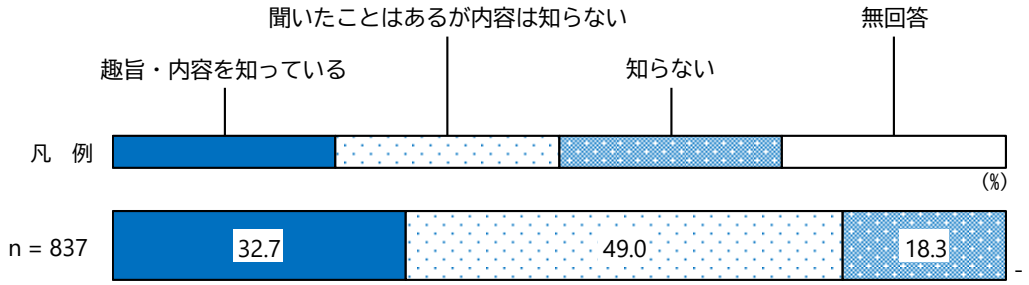
（３）　過去１年間に、虐待につながる可能性のある関わりや、気になる関わりを見聞きしたことがありますか。ある場合はどのように対応しましたか。（いくつでも）



（４）令和８年 12 月 25 日に施行される、こども性暴力防止法の認知度

▶令和８年 12 月 25 日に施行される、こども性暴力防止法の認知度について、「聞いたことはあるが内容は知らない」が 49.0%と最も高く、次いで「趣旨・内容を知っている」（32.7%）、「知らない」（18.3%）となっている。

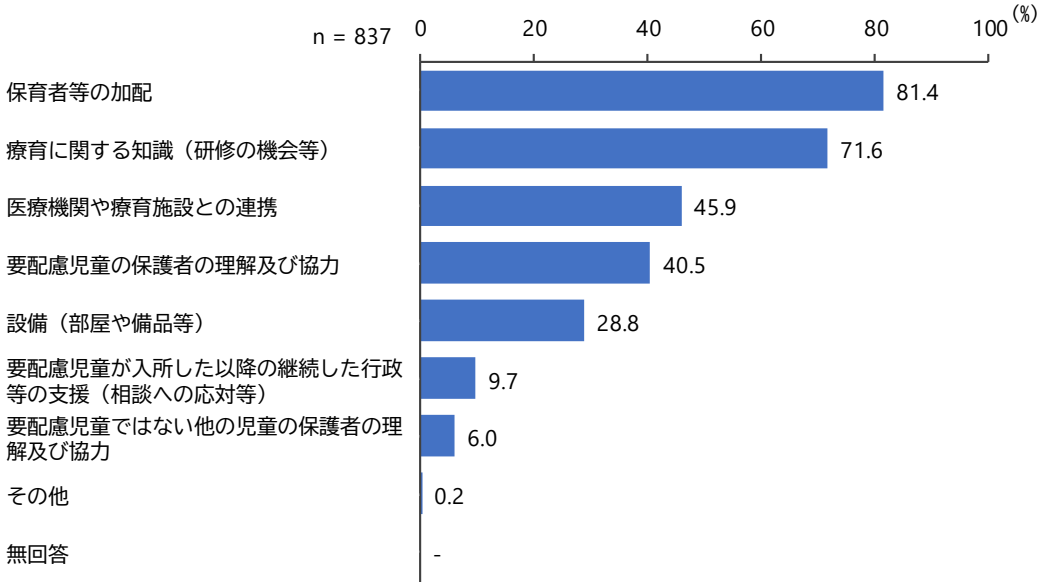
（４）　令和８年 12 月 25 日に施行される、こども性暴力防止法についてご存じですか。



14　障がいがある児童や特別な支援を要する児童（要配慮児童）の受入に必要だと思うもの

▶障がいがある児童や特別な支援を要する児童（要配慮児童）の受入に必要だと思うものについて、「保育者等の加配」が 81.4%と最も高く、次いで「療育に関する知識（研修の機会等）」（71.6%）、「医療機関や療育施設との連携」（45.9%）となっている。

14　障がいがある児童や特別な支援を要する児童（要配慮児童）の受入にあたって特に必要だと思うものは、どのようなものですか。３つまで選択してください。

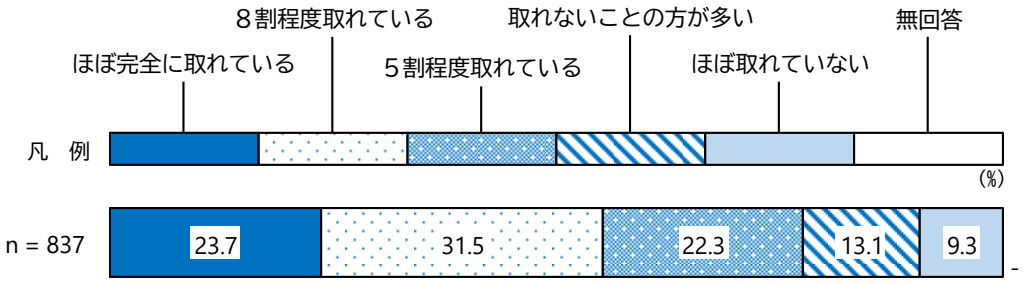


15　現在の就業環境における休憩時間

（１）休憩時間は取れているか

▶休憩時間は取れているかについて、「８割程度取れている」が 31.5%と最も高く、次いで「ほぼ完全に取れている」（23.7%）、「５割程度取れている」（22.3%）となっている。

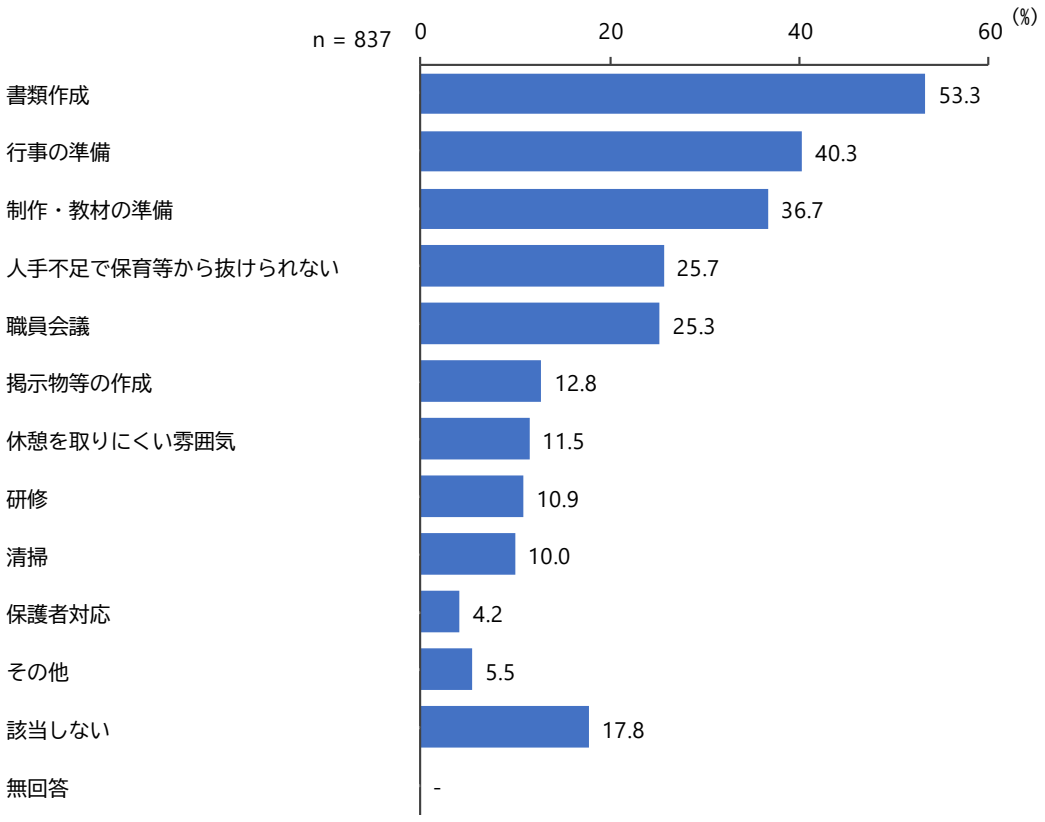
（１）　休憩時間は取れていますか。



（２）休憩を十分に取れない場合の理由

▶休憩を十分に取れない場合の理由について、「書類作成」が 53.3%と最も高く、次いで「行事の準備」（40.3%）、「制作・教材の準備」（36.7%）となっている。

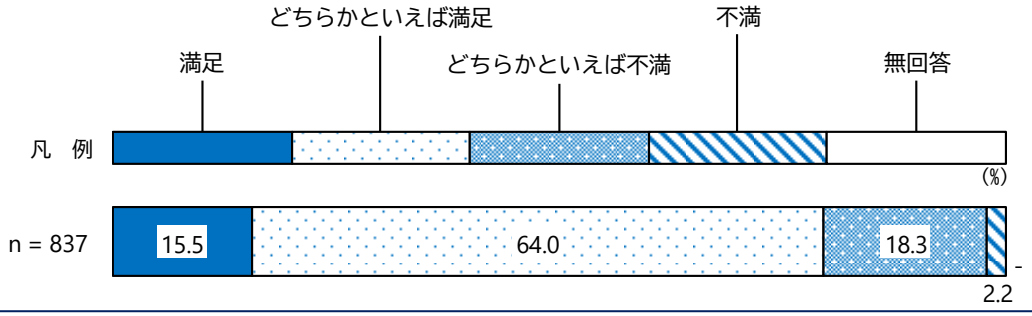
（２）　休憩を十分に取れない場合の理由をお答えください。（いくつでも）



16　保育・幼児教育者としてのやりがい・満足度

▶保育・幼児教育者としてのやりがい・満足度について、「どちらかといえば満足」が 64.0%と最も高く、次いで「どちらかといえば不満」（18.3%）、「満足」（15.5%）となっている。

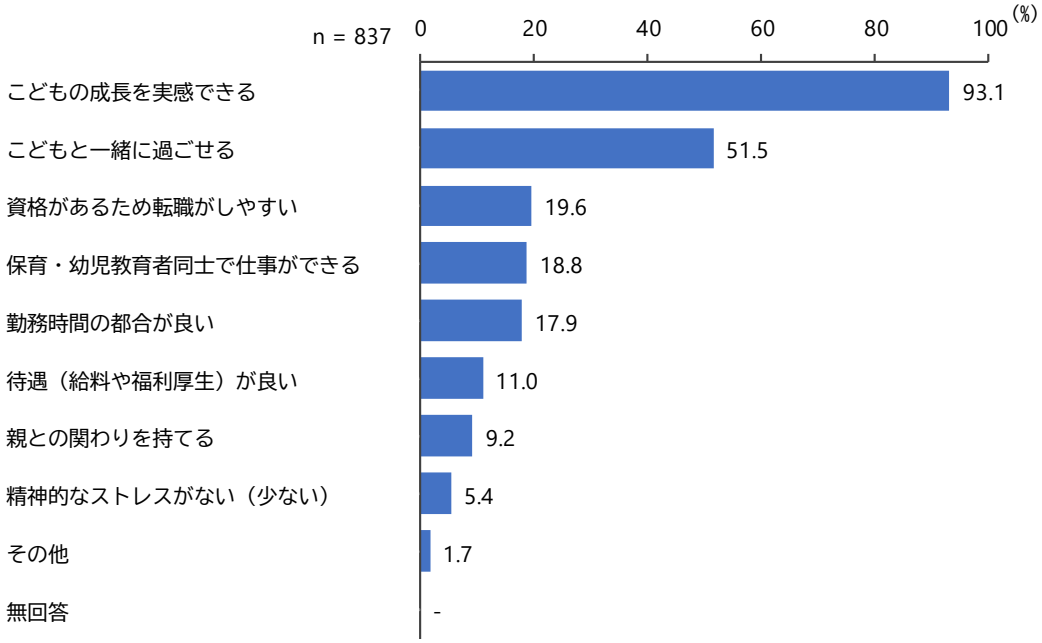
16　現在の就業環境における、保育・幼児教育者としてのやりがい・満足度をお伺いします。



17　保育・幼児教育の仕事の魅力

▶保育・幼児教育の仕事の魅力について、「こどもの成長を実感できる」が 93.1%と最も高く、次いで「こどもと一緒に過ごせる」（51.5%）、「資格があるため転職がしやすい」（19.6%）となっている。

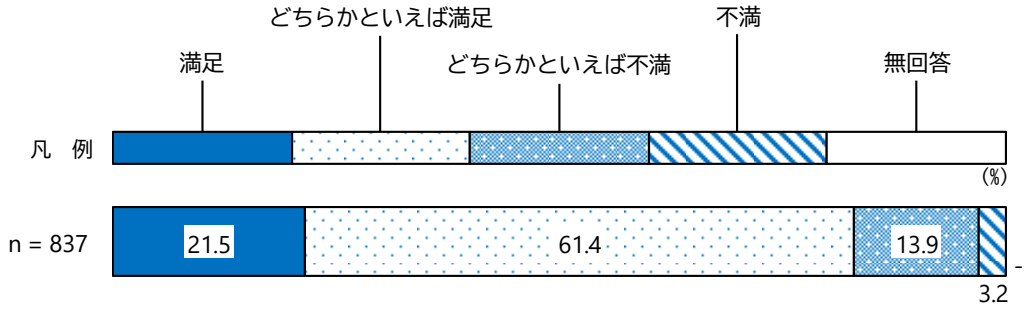
17　保育・幼児教育の仕事について、どのようなところに魅力を感じますか。（いくつでも）



18　職場の雰囲気の満足度

▶職場の雰囲気の満足度について、「どちらかといえば満足」が 61.4%と最も高く、次いで「満足」（21.5%）、「どちらかといえば不満」（13.9%）となっている。

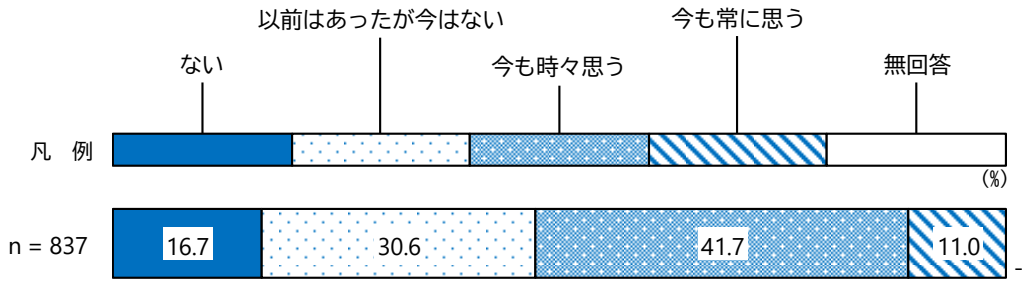
18　現在の就業環境において、職場の雰囲気については満足していますか。



19　保育・幼児教育者として働くことを辞めたいと思う（思った）ことはあるか

▶保育・幼児教育者として働くことを辞めたいと思う（思った）ことはあるかについて、「今も時々思う」が 41.7%と最も高く、次いで「以前はあったが今はない」（30.6%）、「ない」（16.7%）となっている。

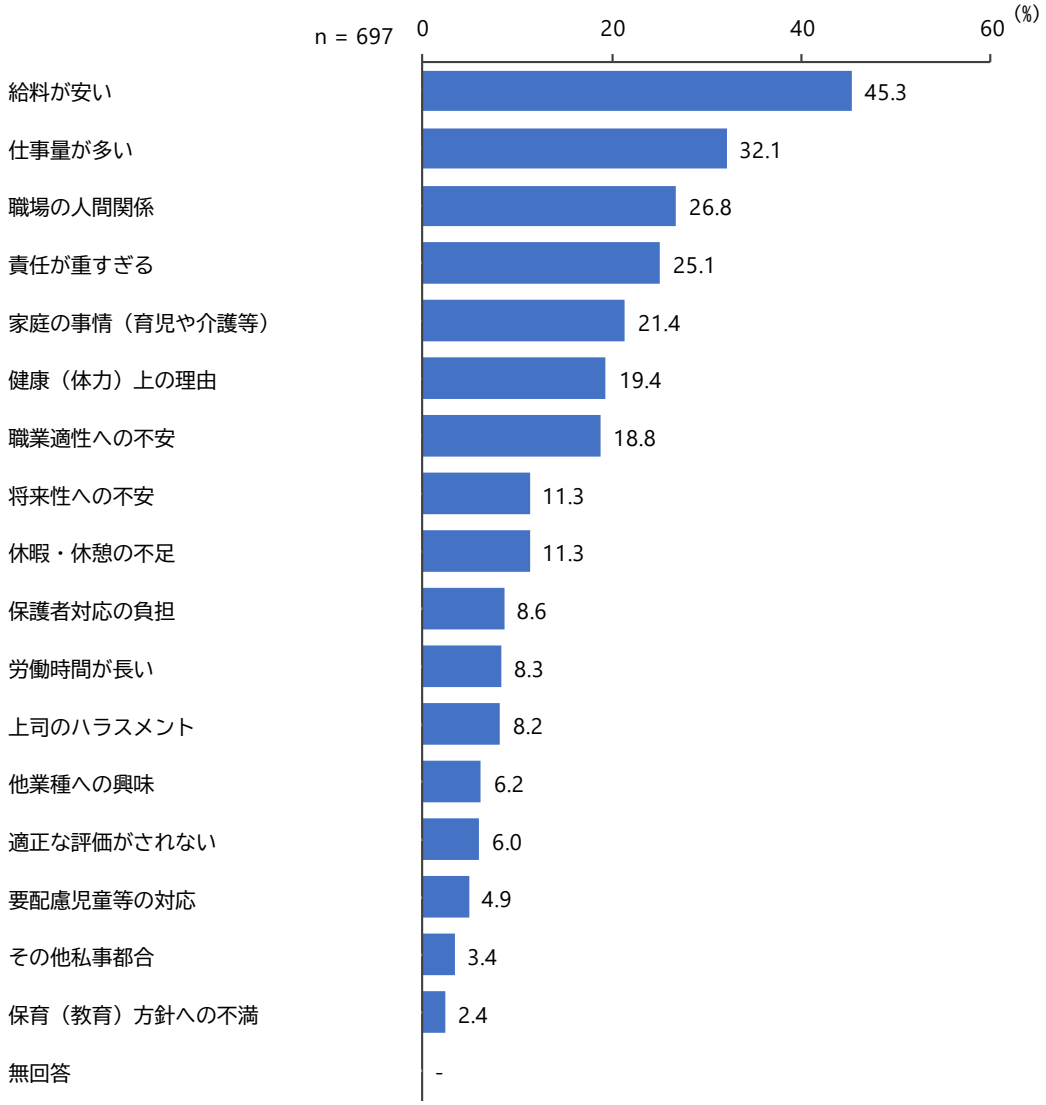
19　保育・幼児教育者として働くことを辞めたいと思う（思った）ことはありますか。



20　保育・幼児教育者として働くことを辞めたいと思う（思った）理由

▶保育・幼児教育者として働くことを辞めたいと思う（思った）理由について、「給料が安い」が 45.3%と最も高く、次いで「仕事量が多い」(32.1%)、「職場の人間関係」(26.8%)となっている。

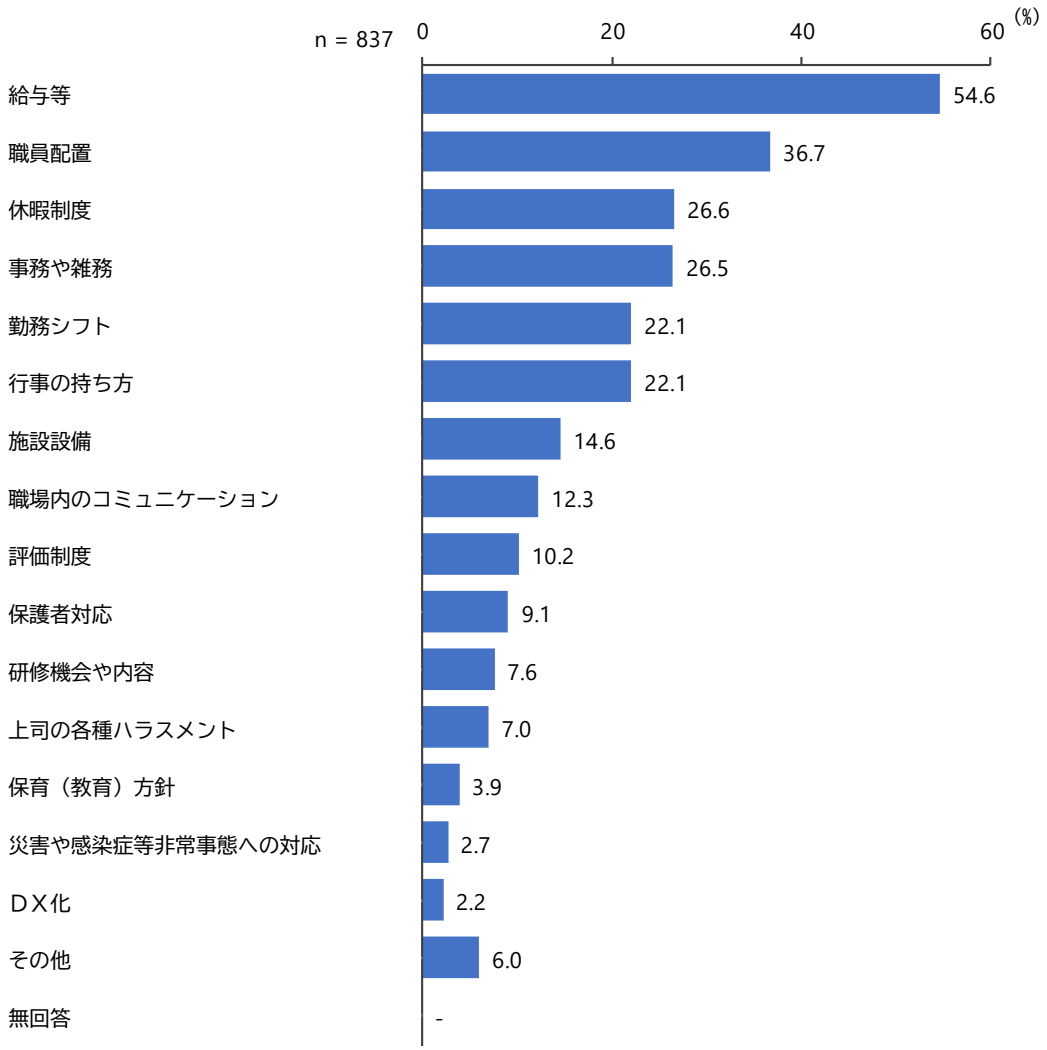
20　前の質問で「ない」以外を選択した方にお伺いします。保育・幼児教育者として働くことを辞めたいと思う(思った)理由は何ですか。
特に大きなものを３つまで選択してください。



21　現在就業している施設で改善してもらいたいこと

▶現在就業している施設で改善してもらいたいことについて、「給与等」が 54.6%と最も高く、次いで「職員配置」（36.7%）、「休暇制度」（26.6%）となっている。

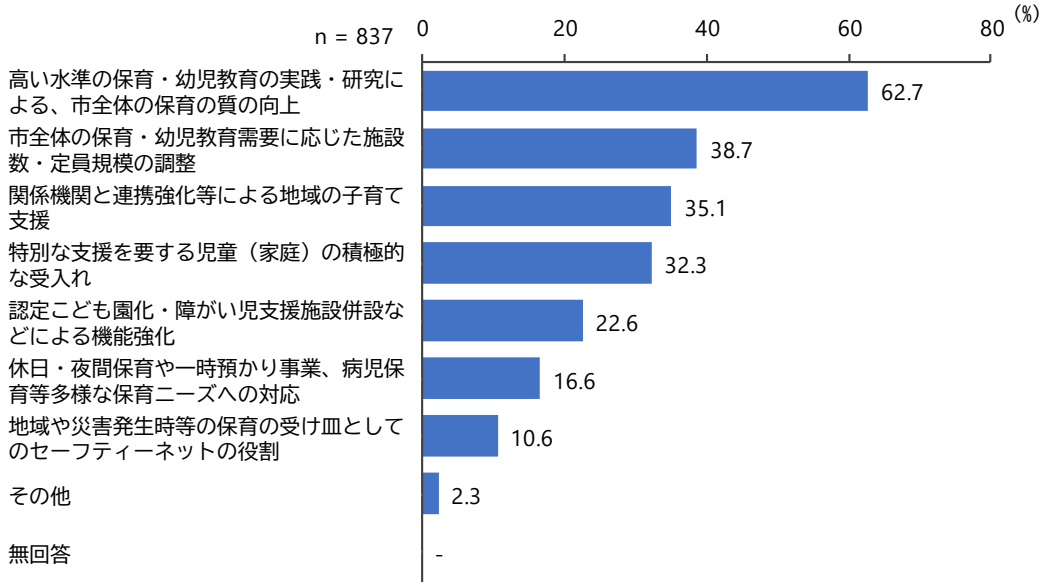
21　現在就業している施設で改善してもらいたいことは何ですか。（いくつでも）



22　本市公立保育所に求められる役割

▶本市公立保育所に求められる役割について、「高い水準の保育・幼児教育の実践・研究による、市全体の保育の質の向上」が 62.7%と最も高く、次いで「市全体の保育・幼児教育需要に応じた施設数・定員規模の調整」（38.7%）、「関係機関と連携強化等による地域の子育て支援」（35.1%）となっている。

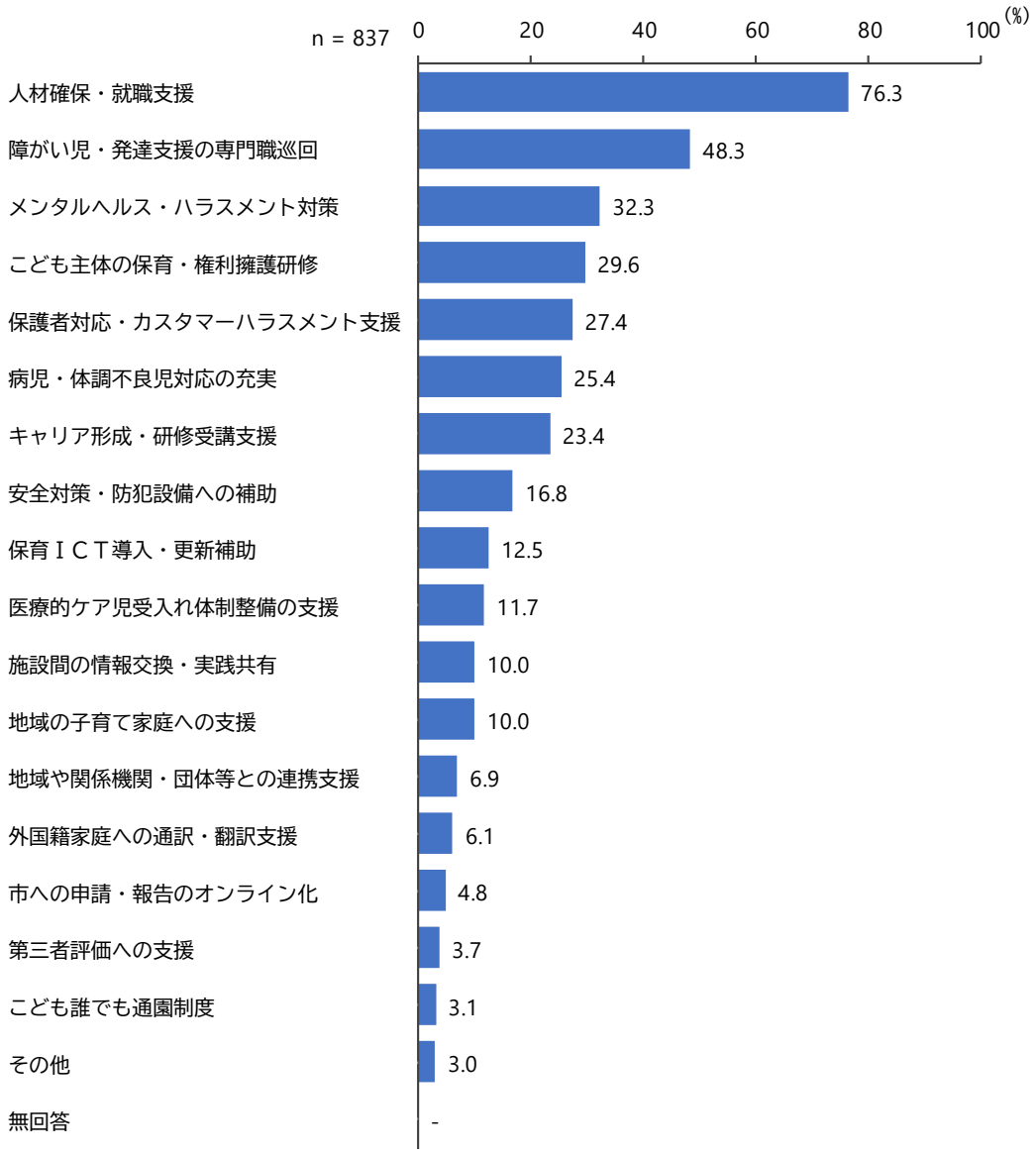
22　本市公立保育所に求められる役割について、特に必要だと思うものを３つまで選択してください。



23　本市における保育・幼児教育に関して、市が重点的に取り組むべき施策

▶本市における保育・幼児教育に関して、市が重点的に取り組むべき施策について、「人材確保・就職支援」が 76.3%と最も高く、次いで「障がい児・発達支援の専門職巡回」（48.3%）、「メンタルヘルス・ハラスメント対策」（32.3%）となっている。

23　本市における保育・幼児教育に関して、市が重点的に取り組むべき施策について５つまで選択してください。



郡山市保育・幼児教育ビジョン
策定にかかるアンケート調査
－調査結果報告書－

発行年月：令和８年 10 月
発　　行：郡山市こども部　保育課保育所管理係
〒963-8601　郡山市朝日一丁目 23 番７号
電　　話：024-924-3541
ＦＡＸ　：024-924-3802